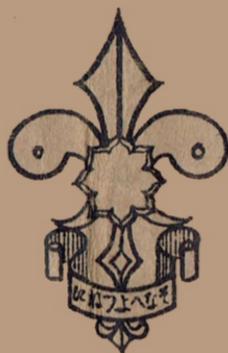


# 健兒歌集



靜岡少年團



Symbol.

昭和庚辰  
樂山元

天壽庵  
野越



筆 郎 次 元 崎 尾

## 宣 誓

私は神聖なる信仰に基き名譽にかけて次の三條を誓ひます

- 一、神明を尊び、皇室を敬ひます
- 一、人の爲、世の爲、國の爲に盡します
- 一、少年國のおきてを守ります

## おきて

- 一、健兒は忠孝を勵む
- 二、健兒は公明正大、名節を生命とする
- 三、健兒は有爲、世を益することを務とする
- 四、健兒は互に兄弟、總ての人を友とする
- 五、健兒は常に親切、動植物を愛する
- 六、健兒は長上に信賴し、團各長に服従する
- 七、健兒は快活、笑つて困難に當る
- 八、健兒は恭謙、禮儀正しい
- 九、健兒は勤儉質素である
- 十、健兒は心身共に清い

◇高らかにうたふ歌を持つ人は幸だ。

溢るゝばかりの歡喜に波うたしめ

歌によつて心を磨き 心によつて歌を磨く。

◇健兒は歌ふ。

さつぱりした心事 ナイブな明るさ ゆかし

い 潑刺 さ清らかな神ながらの心 な

をより高いもの より豊潤なものに暢べる。

◇詩は志の之くところ！

歌謡は民心の反映である。

良い歌を選び 引きしまつた しやんとした氣

分で ほがらかにうたふ。

健兒は歌ふこそ そのものゝ技巧より それか

ら薄く氣分に活き 波動に浮んで步調する。

◇野聲に ハイキングに シンボジュームに 少年

團の集りに 歌は 無くてはならぬもの

共に歌つてお互の心を結び 魂の修練をする。

萬物同根 彼我融一の境地を心ゆくまで歌ふ。

大自然の若葉は吾等の心抵にかほらん。

◇集團して唱ふ。

なんたる麗はしい共同心の表現である！

森林生活のよさも 野外生活のうれしさも また

歌ふことによつて發展し 擴充される。

◇上古の祖たちも歌つた。

色々な形 種々な方法で音楽に接し 樂によつて

神の聲を聞き 歌に慰安の資を求めた。

樂に導かれて家の人々相互の人格を尊びあひ

互に一致團結して事に當ることゝをつくる。

◇健兒は歌ふ。

大自然の脈うつ大地を友とし 高い香氣にむせび

靜寂な萬象の懷に抱かれて諦聽する。

滋潤な同情を湛え 深淵な自然の律動に浸り

木々に呼びかけ！

月光にさゝやく！

あゝ 健兒は 逍遙の心に活き

徑行の妙機にひたらなん！

(里

響)

# 目 次

1	君 が 代	…… (君が代は千代に八千代に)	8
2	大日本少年團	…… (東西古今ためしなき) 少	9
3	少年團歌	…… (花は薫るよ花の香に) 幼少	11
4	日本海洋少年團	…… (海々々日は輝き) 幼少	12
5	備へよ常に	…… (秋津洲に産れ出でし健兒よ) 少二部	13
6	光の路	…… (大空にわたる日の光は清く) 少二部	14
7	日本國民歌	…… (孔へろ嵐 恐れじ我等) 少青	15
8	愛國の歌	…… (神代の昔も昭和の今も) 少青	16
9	國民の歌	…… (讃めよ歌へよ我が大御代を) 少	17
10	杜の健兒	…… (空の廣さよからりて晴れて) 少幼	18
11	ハイキングの歌	…… (河の水ぬるみたり野邊の花) 幼少	19
12	ジャンボリー	…… (ジャンボリー々々) 幼少	20
13	煙はまふよ	…… (ラハハ、煙はまふよ 空高くに) 少	21
14	楽しき野營	…… (楽しかりし去年の夏の) 少	22
15	山の凱歌	…… (輝く空に 連る雲の頂) 少青	23
16	明日は晴だ	…… (明日は晴れだ 青空だ) 少	24
17	天幕にふる雨	…… (テントに降る雨 瀧の雨) 少	25
18	愉快的なスカウト	…… (朝日はのぼる 愉快だ々々) 幼少二部	25
19	愉快的なスカウト	…… (朝日はのぼる 其の二) 幼少	27
20	ふくろ	…… (ホ、ホハ、ホー鼻よ鼻よ) 幼	28
21	ふくろ	…… (ホウホウ ふくろが鳴く) 幼	29
22	我は鼻 山中の森	…… (われはふくろよ楽しきふくろ) 幼少	30
23	僕等のキャンプ	…… (僕等のキャンプは赤澤よ) 幼少二部	31
24	野營の歌	…… (今や朝日はのぼるいざや健兒等) 幼少	32
25	開拓者の歌	…… (岩をぶつちわりぶつちわり) 幼少	33
26	村の道ぶしん	…… (溝をさらへ草を刈りて) 幼	34

27	進め健兒	…… (進め健兒皆揃つて)	幼	36
28	森の氣	…… (夕靄こめて梟が鳴く)	輪少	37
29	むかふのお山に	…… (向ふのお山に黒雲)	少幼	38
30	夜の歌	…… (遠き山に日は落ちて)	少	40
31	ジャングルの歌	…… (ジャングル々おいらの世界)	幼	41
32	うちの坊や	…… (うちの坊やほりかうな坊や)	幼	42
33	子狼の歌	…… (森森森の子子狼)	幼	43
34	赤狼の歌	…… (森に育つた狼部)	幼	44
35	つばめの歌	…… (歸るよ燕木の葉のお舟)	幼	45
36	わし	…… (雲むしのげる老木の)	幼	46
37	證城寺の狸囃	…… (證證證城寺證城寺の庭は)	幼	47
38	燃えろ赤い火	…… (もえろ々赤い火パチ々)	幼	48
39	蕃獵	…… (シンシヤングリ々グリ々ワツシヤ)	幼少	49
40	臺灣蕃社の歌	…… (エイ々エイヤハイ)	幼少	50
41	蕃歌	…… (ハイヨー ヨイ ワイ ハイヨー)	幼少	51
42	キルリウオツチ	…… (キルリ々々ウオツチ々)	幼	52
43	斧のひびき	…… (斧のびき ココロ々)	少	52
44	牛若丸	…… (キヤピタル五條の橋の上)	幼	53
45	Are you sleeping	…… (アールユースリーピング)	輪幼少	53
46	Iondong barning	…… (ロンドンスバーニング)	輪幼少	54
47	Camp fire	…… (キャンプファイヤ々々)	輪幼少	54
48	雪が降る	…… (雪がふる々ちらちら)	輪幼少	54
49	火が燃える	…… (火が燃える々パチ々)	輪幼少	54
50	Row, row, row, your, boat	(ロウ・ユア ボウト)	輪幼少	54
51	漕げ船を	…… (こげ船を かはしもに)	輪幼少	55
52	篝火をめぐりて	…… (篝火を廻り集ふは嬉し)	少	56
53	月下の營火	…… (今宵此森に 楽しきまごひ)	少二部	57
54	今日の幸	…… (星影さやかに 靜に更けぬ)	少二部	58

55	全夜俳驅	……(キ、、、、鳥聲面白く)	少	……59
56	山の歌	……(守れ権現夜明の霧よ)	幼少	……60
57	子供の誦	……(おどり々チンチキ)	幼	……61
58	笑の歌	……(富士の裾野に花咲げば)	幼	……62
59	キャンブ	……(山のキャンブだキャンブの)	幼	……63
60	日の丸の旗	……(むら雲はらつて世界を)	幼少	……64
61	夜明け	……(さあさ夜あけだ朝霧はれた)	幼少	……65
62	朝の歌	……(日は出でぬ々々)	少二部	……66
63	朝霧ふみわけ	……(朝露ふみわけ若き健兒)	少	……67
64	昭和の子供	……(昭和々々昭和の子供よ)	幼二部	……68
65	健兒の一日	……(テント張り 溝堀り)	幼小	……69
66	星の界	……(月なき御空に きらめく光)	少四部	……70
67	別れの歌	……(一の森にむつまじく)	少四部	……71
68	美はしき天地	……(咲く花鳴く鳥樂盡せず)	少四部	……72
69	里の小川	……(谷合の里せゝらぎなして)	少三部	……73
70	日出づる國	……(東の空高く 朝日はのぼり)	少二部	……74
71	海の子	……(我等わりき海の子等よ)	少二部	……76
72	ALOH OE	……(山邊にふる雨は音もなく)	少三部	……78
73	ALOH OE	……(HAA HEO KAUA LNAP ALI)		……80
74	Good night sothers	……(— — —)	少青四部	……81
75	若者の歌	……(露ふみ越ゆる山山)	少青三部	……82
76	青年の歌	……(明けゆく空よ いざ々々)		……83
77	貴く生きん	……(夕しづけき森の中)	少青	……84
78	空は青雲	……(空は青雲 わしらは若い)	少青	……85
79	赤澤山の野營	……(緑濃き森のかげ)	少四部	……86
80	湖畔の野營	……(緑濃き松のかげ)	少四部	……87
81	静岡縣青年團	……(駿河の國を中にして)	青	……88
82	乃木大將	……(夢より淡き三日月の)		……89

83	赤穂義士	……(君の恵に比ぶれば)	……90
85	起てよ國民	……(天神いかり 地祇いかる)	……91
84	日本海々戦	……(海路一萬五千餘里)	……92
86	進軍	……(日出づる國のますらをが)	……94
87	建國行進歌 1	……(日の大神が 日の國を)	……95
88	建國行進歌 2	……(神の恵の高千穂に)	……96
89	陸軍行進曲	……(思へば長し神武の帝)	……97
90	軍艦マーチ	……(守るも攻むるも黒がねの)	……98
91	抜刀隊	……(吾は官軍 我が敵は)	……99
92	橘中佐	……(遼陽城頭 夜はふけて)	……102
93	獨立守備隊の歌	……(あゝ満洲の大平野)	……104
94	爆彈三勇士	……(廟行鎮の敵の陣)	……106
95	曙 曉 森 曙	……(森は静かに明け行く) 少	……108
96	たのしき野營		……109
97	日の丸萬歳	……(花は櫻よ お山は富士よ)	……110
98	皇太子様お生れなつた	……(日の出だ 日の出に鳴つた々)	……111
99	スキュー民謡	……(雪のお山でリヤントリヤン)	……112
100	後藤總長の歌	……(僕等のすきな總長は)	……11 <sup>3</sup>
101	平石少年村キャンプファイヤー	……(あかれさす陽は西に入り)	……113
102	チャカラカ 々	……(チャカラカ チャカラカ)	……113
103	マーチ		……114
104	Polly wolly doodby		……115
105	La marche des petits lapins		……116
106	ラツバの譜抄		……117
	(君が代 皇御國 海行かば 氣を付け)		……117
	(國の鎮め 集れ 觸れ 前へ 止れ)		……118

# 1 君 が 代

古 林 廣 守 歌 曲

[♩=69]

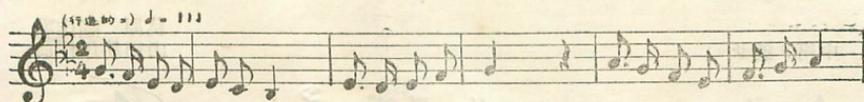
キ ミ カ - ヲ - ハ テ ヲ ニ - - ヤ チ ヲ ニ

サ サ レ イ シ ノ イ ハ ホ ト ナ リ テ

コ ク ノ ム - ス - マ - テ

# 2 大日本少年團

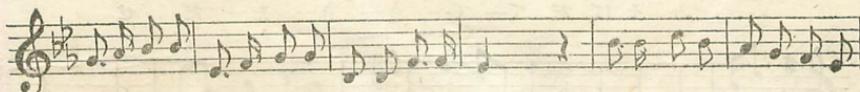
葛原 齒 作歌  
永井 健子 曲



1 トウザイ ココン タメシナキ ワガクワウシツノ  
2 すあてんはうふつ かざりなき いほえのなみの



タ ウ トサヨ ワガコクタイノ カ シ コサヨ  
は て までも ゆくへはるけき わ が ころ



チユウクン アイコク コレシセイ アシタニユフベニ  
われらはかいこくだんじなり うみをぼにちやの



チ カ ヒツ、 フルヘヤ 日本 少年 團  
と も きて ふるへや 日本 少年 團

- 一、東西古今例しなき  
わが皇室の尊さよ  
わが國体の長さよ  
朝忠君愛國これ至誠  
振へや日本少年團
- 二、水天髣髴際涯なき  
五百重の波の果までも  
行方はるけき我が心  
我等は海國男子なり  
海をば日夜の友として  
振へや日本少年團
- 三、瀾々として東に  
大日輪の昇る時  
まづわが國を照すなり  
その嚴き勇ましき  
世界に輝く此の誇  
振へや日本少年團
- 四、巖々として野に山に  
櫻咲くなりしきしまの  
大和心と向ひつゝ  
武士道花とかほる時  
あゝ東海の君子國  
振へや日本少年團
- 五、八重の富士の山  
千古の雪をかすみの奥に立ち  
飾り自然の姿いまだきよ  
振へや日本少年團

# 3 少年團歌

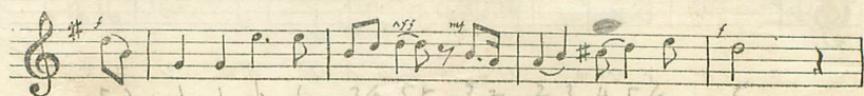
葛原 幽作歌  
山田耕作作曲

中庸ノ速サ



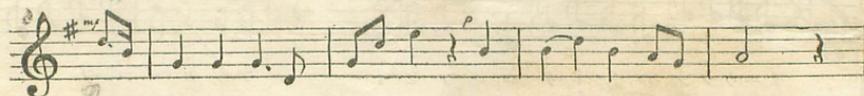
1 ハ ナ ハ カ ホ ル ヨ ハ ナ ノ カ ニ

2 ま な こ ひ ら き て み き は め よ



ヒ ハ カ ガ ヤ ク ヨ ヒ ノ ヒ カ リ

み み そ ば だ て て き き た だ せ



ワ レ ラ ニ メ イ ヨ ノ オ モ キ ア リ

わ れ ら に ふ た ん の じ ゅ ん び あ り



カ ナ リ カ ヒ カ リ カ ア アーメイヨ

て あ し に こ ゝ ろ に あ あー じ ゅ ん び



メ イ ヨ メ イ ヨ オ モ キ ヅ メ イ ヨ フ レ フ レ フ レ セ ウ ネ ン ダ ン

じ ゅ ん び じ ゅ ん び か た き ぞ じ ゅ ん び ふ れ ふ れ ふ れ せ う ね ん だ ん



キ ンー メ イ ヨ ゾー オ モ キ

ゐ んー じ ゅ ん び ぞー か た き

# 少年團歌

(一)

花は薰るよ、花の香に、  
日は輝くよ、日の光。

我らに名譽の重きあり、  
薫りが光りか、あゝ名譽。

名譽、名譽。

重きぞ、名譽。

フレフレフレ

少年團員 名譽ぞ重き。

(二)

眼開きて 見きはめよ、  
耳そばだてゝ聞きたゞせ。

われらに不斷の準備あり、  
手足に心に、あゝ準備。

準備 準備、

固きぞ、準備。

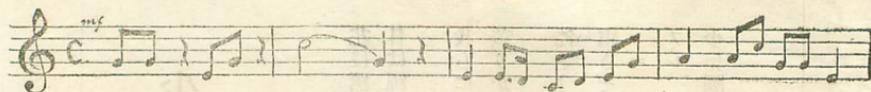
フレフレフレ

少年團員 準備ぞ固き。

## 2 大日本海洋少年團歌

活潑 = 行進曲ノ速サニ

掛札 弘作歌  
青木藤得作曲



1 ウミ ウミ ウ ミ ヒハーカ ヲ ヤキ ナ ミハチドル  
2 うみ うみ う み みどりきーよくすみてふかし



ム ネチ ハリ メチ アゲ テ タ カ ラカ ニ  
わ れら また うみ のご と き よくして



サケ バン ヲレ ハ ウ ミ ノ コ ー  
か げ な し わ れ は う み の こ ー

一、海、海、海、

日は輝き波は躍る、

胸を張り目をあげて、

高らかに叫ばん、

われは海の子。

二、海、海、海、

みどり清く澄みて深し、

我らまた海の子、

清くしてかけなし、

われは海の子。

三、浪、浪、浪、

怒りたけり打寄するも、

我らみな岩の如、

かたくして動かず、

國の護に。

四、いざ、いざ、いざ、

力合せ心一つ、

日の出づる國のもと、

もろてあげうたはん、

われは海の子。

# 5 備へよ常に

壯嚴=中庸ノ速度

シアルデイ=原曲  
堀内敬三作歌

1 アキツ シ マ ニ ウ マ レ イ デ  
2 す め ら ぎ み の み い つ く し み

シ ケ ン シ ヨ ホ マ レ タ カ キ  
に け ん じ よ こ た へ ま つ る

ク ニ ノ タ メ ニ ソ ナ ヘ ヨ ツ ネ ニ  
こ こ ろ を も て そ な ヘ ヨ ツ ネ ニ

一、あきつしまに

生れ出でし 健兒よ

ほまれ高き 國の爲に

備へよ常に

二、<sup>スメラギ</sup>皇君の

御意しみに 健兒よ

對へまつる 心をもて

備へよ常に

三、強き身体

堅き心 健兒よ

築き立てよ此の世の爲

備へよ常に

# 6 光の路

中庸ノ速サニテ

マーティン作曲  
堀内敬三 作詞

1 オ ホ ゾ ラ ナ ワ タ ル ヒ ノ ヒ カ リ ハ キ ヨ ク  
2 い つ は り と お こ た り と い や し き よ く も

コ コ チ ヨ キ カ ガ ヤ キ ニ ヤ ミ ハ ヲ ヲ セ ユ ク  
ウ チ ヤ ブ リ キ よ む る は こ ろ の ひ か リ

ヒ カ リ ノ ミ チ ブ ミ ユ ク ワ レ ラ  
ひ か り の みち を ふ み ゆ く わ れ ら

ト コ シ ヘ ニ タ モ タ ア カ ル キ コ コ ロ  
と こ し へ に た も た ん あ か る き こ こ ろ

(一)

大空を渡る日の 光は清く  
心地よき輝きに 闇ばうせゆく

光の路を 踏みゆく我等

永久に保たん 明るき心

(二)

偽りと意りと 卑しき慾も

打やぶり清むるは 心の光

光の路を 踏みゆく我等

永久に保たん あかるきこゝろ

(三)

大君の御恵は 天照る光

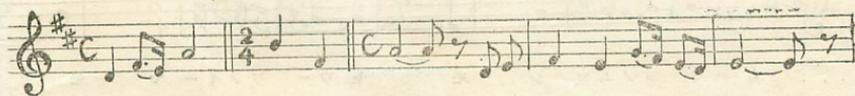
此光身にそえてしるべとなさなん

光の路を 踏みゆく我等

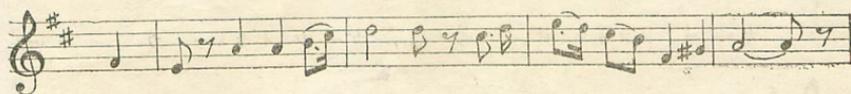
永久に保たん あかるきこゝろ

# 7 日本國民歌

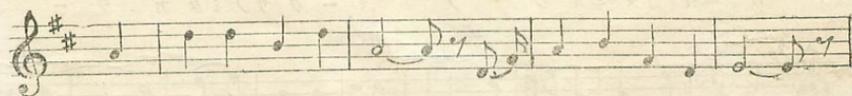
中川末一作詞  
山田耕作作曲



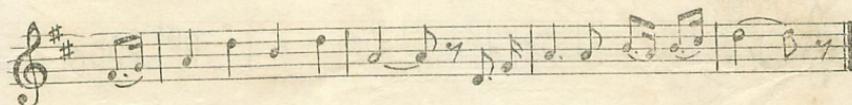
1 ホエーロ アラ シー ホソ レ シ ヲーレー ラー  
2 くるへ ど た うー ゆる が じ わーれーらー



ミ ヨ テンノーウノ サン タールーミイツー  
み よ ぼんぢやくの げん たーるーそこくー



サ ヘギルク モー ダン シテ ト ホ ルー  
た い へ いや うー だん じて や す しー



サーヘギルクモーダンシテトーホルー  
たーいへいやうーだんじてやーすーしー

一、孔えろ 嵐  
恐れじ我等  
見よ天皇の

燎たる稜威  
遮る雲 断じて徹る  
遮る雲 断じて徹る

二、狂へ 怒濤  
ゆるがじ我等  
見よ磐石の

嚴たる祖國  
太平洋 断じて安し  
太平洋 断じて安し

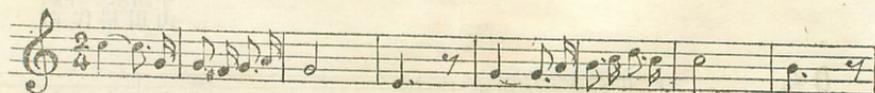
三、來れ 猜疑(さいぎ)  
許さじ我等  
見よ極東の

確たる平和  
アジアの土 断じて守れ  
アジアの土 断じて守れ

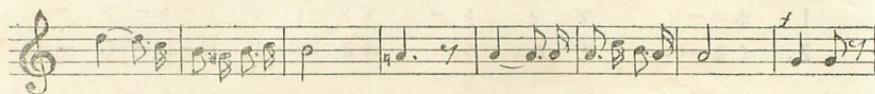
四、擧(こぞ)れ日本  
いざ〜我等  
見よ國民の

凛たる苦節  
正義に今 断じて立てり  
正義に今 断じて立てり

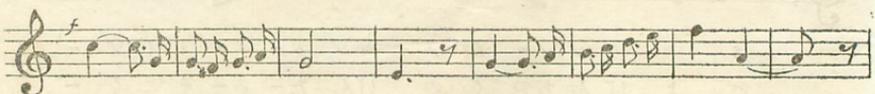
# 8 愛 國 の 歌



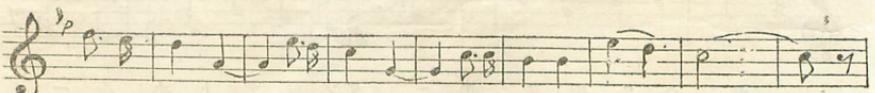
カ - ミ ヨ ノ ム カ シ モ セ ウ - ツ ノ イ - マ モ



カ - ハ ラ ヌ ミ ス ギ ノ ガ - ツ オ ホ ミ - カ ド -



ウ - ゴ カ ヌ シ ル シ ノ ミ - ク サ ノ ミ タ カ ラ -



ア フ ゲ ヤ - モ ロ ビ ト - ヨ ロ ツ ヨ マ デ モ -



ウ ゴ カ ヌ - シ ル シ ノ - ミ ク サ ノ ミ タ - カ - ラ



ア フ ゲ ヤ - モ ロ ビ ト - ヨ ロ ツ ヨ マ デ モ -

萬代までも	仰ふげや諸人	萬代までも	仰ふげや諸人	三種の寶器	動かぬしるしの	我大帝	かはらぬ皇統の	昭和の今も	神代の昔も
-------	--------	-------	--------	-------	---------	-----	---------	-------	-------

# 9 國民の歌

北原白秋歌  
山田耕作曲



1 ホーメヨウターヘーヨワガオホミ  
2 ほーめようたーへーよわがおほみ



ヨナアフダアーガーメヨスメラミカード  
こをほこれよろこべわかきひかり



ナガガアガメヨスメラミカード  
をとおおよろこべわかきひかり



ナイヤサカイヤサカイヤサカエアーレヤ  
をいやさかいやさかいやさかえあれや

讃めよ 歌へよ  
我が國柄を  
承けよ 傳へよ うまし山川  
おお傳へよ うまし山川  
彌榮 彌榮 彌榮えあれや

## 三

讃めよ 歌へよ  
我が大皇子を  
誇れ よろこべ わかき光を  
おお喜べ わかき光を  
彌榮 彌榮 彌榮えあれや

## 二

讃めよ 歌へよ  
我が大御代を  
仰げ崇めよ 天皇を  
おお崇めよ 天皇を  
彌榮 彌榮 彌榮えあれや

## 一

# 10 杜の健兒

野口雨情作詞  
山口保治作曲

大まかに且朗らかに



ソ ラ ノ ヒ ロ サ  
 ぞ こ へ ゆ く や



ヨ カ ラーリ トー ハ レー テ ア キー ノ ア  
 ら あ のーか ヒー ガ ねー は すんーだ あ



チ ゾラ ー ス ミ ー ワ タ ル ー  
 を ぞら ー な い ー て ゆ く ー

一、空の廣さよ

秋の青空

澄みわたる

カラリと晴れて

二、どこへゆくやら

あの雁金は

すんだ青空

ないて行く

三、杜の健兒の

斧のひびきも

秋はすみきる

すみ通る

四、草が枯れよと

木の葉がおちよこ

秋の野山は

世界晴れ

# 11 ハイキングの歌

(パトロール  
行進曲)

北 歐 曲  
中野忠八歌



1 カハノミヅ ヌルミタリ ノベノハナサ キイデヌ  
2 あをばこく はるかに ひにりがやく われづたひ



ソラノクモ イトナヒキテ ヒバリタカク アガレリ  
ふもとのかは ながーながと つづくむらざと けむりこめ



ワカバカホリ カゼヨグ メグミフカシ ヒノヒカリ  
たかれにしるく のこるゆき きてはたにに かかるたき



ムラノミチ アシモカロク ケンジノトモハ ヤエイザヘ  
さしき みち ゑみてゆくや けんじのちから いまぞれる

一、河の水ぬるみたり  
野邊の花咲き出でぬ  
空の雲糸を引きて  
若葉蕪風そよがれり  
村の道見も深く光  
青葉濃く遙かに野營地へ  
二、 麓の陽に輝く尾根づたひ  
麓のつづく村里煙こめ  
高根に白く残る雪  
さかしき道ふ谷にゆくや  
三、 森の陰涼しく  
老木は蔭のからみて  
苔青くむす岩根  
小鳥は梢に歌ひて  
清水湧く谷も近し音聞ゆ  
四、 萩薄分けて行くにあり  
霜にそみちは長し山のかひ  
赤きはほこる健兒等が  
捧ぐる血汐我前に  
月の影さやけし我前に  
五、 落葉踏む靴音高く  
肩踊みかきはす健兒等が  
通て合はす口笛は  
若き魂あふれたり

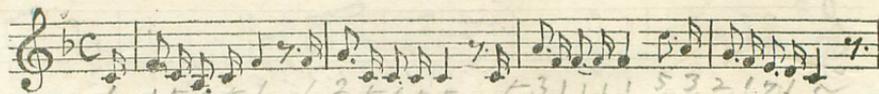




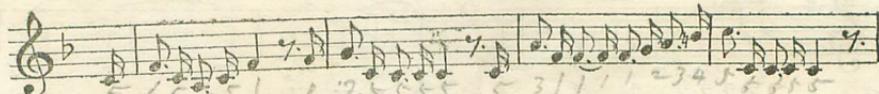
# 14 樂しき野營

北 歐 曲  
中野忠八歌

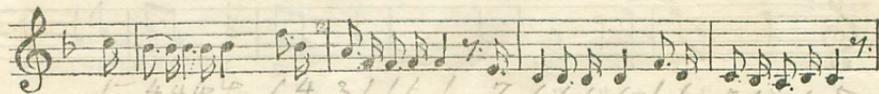
快活ニ行進調ニ



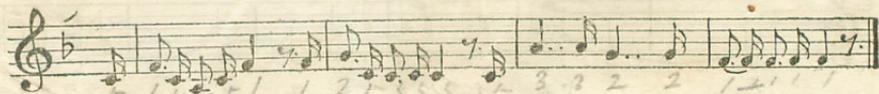
1 タ ノシガリシ コゾノナツノ ヤ エイノユメノ オモヒデハ  
2 ま ちにまちし や すみばきぬ キャンプのーよこそ いまここに



ワ スレガネ ツ ハ ヤヒトトセ コ ヨイハーコーコニクリカヘス  
か がりのひは も へのぼりて わ れらのーおもてをてらしたり



マ ツーフクカ セモ ミソラユク ホ シノヒカリモ カハリナク  
わ かーきちし ほの たかなりは あ にお ことをば ちかひたる



タ ノシガレシ ヤ スミハキヌ ア ア ハ ガ ナ ツーハキヌ  
わ れらのむねにな がーれたり ア ア てあしに ながれたり

一、樂しかりし去年の夏の

野營の夢の思出は  
忘れかれつはや一年  
今宵は此處に繰返す

松吹く風もみ空ゆく  
星の光も變りなく

樂し嬉し夏は此處に  
あゝ、我が夏は來ぬ

二、待ちに待ちし休は來ぬ

かがり火は燃へへのぼりて  
我等の面を照らしたり  
若き血汐の高鳴りは  
兄弟を盟ひたる

我等の胸に流れたり  
あゝ手足に流れたり

三、歌ひつれむ聲は高く

男子の歌を天までも  
語り合はむ力をこめて  
皇國の榮へさ人の爲め

清き願は天地の  
神の心にかなひたる  
聲は高く力こめて

あゝ我等は歌ひてん  
夜のとげり深く下りて

四、木梢高くのぼる煙

あやめもわかぬ森のかけ  
かがりのまどひは更けて行く  
おきて忘れぬ健兒等の  
あゝ今宵の樂しさよ

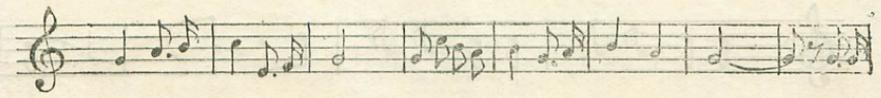
# 15 山の凱歌

元氣 =

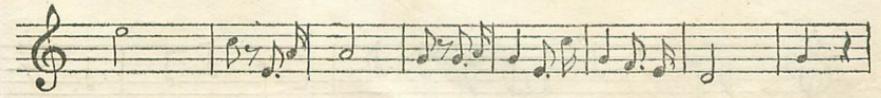
堀内敬三曲並詞



1 カガヤクソラニ 一ツラナルユキノイタダキ  
 2 まひるのひざし 一いはれさをきてもゆれど



オオシクタケク 一クモナバヌキテタツ一オ、  
 はざまのみづに 一れいきはほどぼしる一げは



ミヨコレコ ヲワレラガツヨキホコリ  
 しきみちに もみやまのはなはさき て



ノゾメバムネニ 一チシラハワキノボール一  
 しぜんのあいにも 一みちたりくものらくご一

一 輝く空に  
 連る雪の頂  
 雄々しく武く雲をば抜きて立つ  
 おゝ見よ之こそ我等が強き誇り  
 望めば胸に  
 血潮は湧き昇る

二 眞晝のひざし  
 岩根をさきて燃ゆれど  
 はざまの水に靈氣は逃る  
 険しき道にも御山の花は咲きて  
 自然の愛に

三 満ちたり雲の樂土

荒れよや嵐  
 叫べよ山の荒風  
 卷き立つ霧は總てを蓋ふとも  
 揺がぬ山こそ我等が生の凱歌  
 仰げば空に  
 希望の赤き光り

# 16 明日は晴だ



1 アシタ ハ ハレダ アチゾラ ダ  
2 あした は あめだ おほ あめ だ



ホヤグモ コグモ — アミスキノ —  
みのむし みのむし みのむし



テン テン テント ムシヤ ハネ ホシ ナ  
きん きん き の こ は か さ さ し な



アシタ ハ ハレダ アチゾラ ダ  
あした は あめだ おほ あめ だ

明日は晴だ。

青空だ。

親ぐも子ぐも、

網すきな。

てん、てん、てんとむしや

翅ほしな

明日は晴だ。

青空だ。

二

明日は雨だ。

大雨だ。

みのむし みのむし

みのをきな。

きんきんきのこは

かさしな。

明日は雨だ。

大雨だ。

# 17 天幕にふる雨



1 テントニ フルアメ タキノア メ  
 2 テントに ふるあめ のでんぶ ろ



ハダカデ カケダシヤ ヌレネズ ミ  
 はだか で かけだしや ゆげがた つ



モツト フレ モツトフレ ザー ザー ザー  
 もつと ふれ もつとふれ ざー ざー ざー

天幕にふる雨 野天風呂

はだかで かけだしや

ゆげがたつ

もつとふれ

もつとふれ

ざー ざー ざー

天幕にふる雨 たきの雨

はだかで かけだしや

ぬれれずみ

もつとふれ

もつとふれ

ざー ざー ざー

二

# 18 愉快なスカウト

輕快ニ且ツ面白ク元氣ヲ以テ

(佛スカウトソング)



1 アサヒ ハノボル ユカイダ ニカイダ テントノ  
2 たのしき キャンプ ゆかいだ ゆかいだ きげこり



ソトニ オドリイ デ コエタカ ラカニ  
のうた もりのこ え すいじの けむり



ウータフ コエハ ユカイダ ユカイダ ユカイユカイ  
ゆらゆら のぼる ゆかいだ ゆかいだ ゆかいゆかい



ユカイダ ユカイダ ユカイダ ユカイユカイ ダ  
ゆかいだ ゆだいか ゆかいだ ゆかい ゆかい だ

朝日は昇る 愉快だ 愉快だ

天幕の外に躍り出で

聲高らかに歌ふ聲は

愉快だ 愉快だ

愉快 々々 愉快だ

愉快だ 愉快だ 々々 愉快だ

楽しきキャンプ 愉快だ

さげ鳥のうた 森の聲

炊事の煙 ゆらゆらのぼる

愉快だ

愉快だ

日がくれてきた 愉快だ

かがり火もゆる あか々と

楽しきつごひ 歌へやおざれ

愉快だ

愉快だ

愉快だ

野營の夕 愉快だ

静けくふけて安らかに

御空の星は我等を守る

愉快だ

# 愉快なスカウト

(二)

朝日は昇る愉快だ〜

天幕の外におどり出で

聲高らかに歌ふ聲は

愉快だ〜 愉快〜 愉快だ

愉快だ〜 愉快〜 だ

二

それ集だ愉快だ〜

リニツサツク肩にいざやいざ

元氣にあふれ やよ出でた〜ん

(繰返し)

三

そなへよ常に愉快だ〜

ちかひとおきて胸にこめ

名譽は重く足なみ輕し

(繰返し)

四

仲よき健兒愉快だ〜

兄弟のむつみあひ

互にたすけつとめを果さん

(繰返し)

五

晴れても降つても愉快だ〜

われらの顔はニコ〜さ

よき腕よき眼よき我が心

(繰返し)

六

楽しきキャンプ愉快だ〜

聞け鳥のうた森の聲

炊事の煙ゆら〜のぼる

(繰返し)

七

日がくれて来た愉快だ〜

か〜り火もゆる赤々さ

楽しきつどひ歌へやおどれ

(繰返し)

八

野營の夕愉快だ〜

静けくふけて安らかに

御空の星は我等を護る

(繰返し)

20 ふ く ろ

三上留吉詞並曲



(獨) ホツ ホー ヽヽホ ホー フク ロー ヨフク ロ

(齊) ホツ ホー ヽヽホ ホー ふく ろー よふく ろ



フ クロ ノ オ メ メ ハ ナ ゼニマ ルイ ノ  
わ たし の お め め は な ゼにま るい の

(齊)

ホツホー ホヽヽ、ー

梟よ ふくろ  
私のお宿は「」の森(預)よ

(獨)

三  
ホツホー ホヽヽ、ー

梟よ ふくろ  
梟のお宿は菖蒲が濱よ

(齊)

ホツホー ホヽヽ、ー

梟よ ふくろ  
梟は森の夜の玉様よ

(獨)

二  
ホツホー ホヽヽ、ー

梟よ ふくろ

私のお目々はなぜに丸いの

(齊)

ホツホー ホヽヽ、ー

梟よ ふくろ  
梟のお目々はなぜに丸いの

(獨)

一  
ホツホー ホヽヽ、ー

梟よ ふくろ

21 ふ く ろ

静カ =



ホウ                  ホウ                  ホウ                  —          フク  
 ほう                  ほう                  ほう                  —          めば



ロフガ   ナー          ク          ドコ          デ          ナ          ク          ウラ  
 かり      ひか          る          くふ          ろ          ぎ          リ          おま



ノエノキノ          モリ          デ          ナ          ク          —  
 へはよるの          わう          さ          ま          か          —

一、ほうくく

鼻がなく   ぎこでなく

裏の榎の森でなく

二、ほうくく

眼ばかり光るふくろどり

お前は夜の王様か

三、ほうくく

鼻よなけ来てはなけ

榎の枝の月あかり

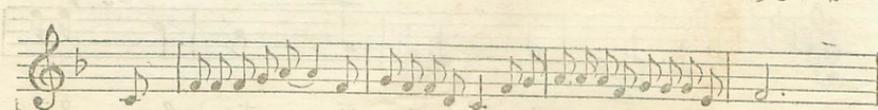
# 22 我 は 梟

中庸ノ速サ

Back to gill Sellノ曲ヨリ  
古川哲雄作詞



1 ワ レハフクロ ヨ タノシキ フクロ ツ トメハタシ—コ コロサヤ カ  
2 わ れはふくろ よ たのしき ふくろ つ とめはたし—こ ころさや か



コ ヨヒウレシ—ホ シアカリニワガフルスヘカヘラナ シ  
こ よひうれし—ほ しあかりに わがふるすへかへらな ン



アア フ ザノフ モ ト ヤマ ナ—カノモリカゲ ニ  
あ あ な つ か— し き あか ざ—はのもりかげ に

(山中の森)

我は梟よ 楽しき梟

務め果し 心爽か

今宵嬉し 星明りに

我が古巢へ 歸らなん

あゝ富士の麓

「山中の森」かげに

ニオ

我は梟よ 楽しき梟

務め果し 心爽か

今宵嬉し 星明りに

我が古巢へ 歸らなん

あゝなつかしき

「非難の森」かげに  
秋像

# 23 僕等のキャンプ

愉快 =



ボクラノキャンプハ アカザハヨ キミラノキャンプハ ミホノサキ  
ぼくらのパトロールは くまのはん くまちゃんのおめめは かほいゝが



トコロイクリカ ハ ナレテモ オナー ジミノ ラノ ホシチミル  
くまちゃんのおてては ちひさいが その一つよいこと かぎりなし

僕等のキャンプは「赤澤」よ

君等のキャンプは「三保の崎」

所 幾里か離れても

同じ御空の星を見る

僕等のパトロールは熊の班

やんのお目々はかほいゝが

熊ちゃんのお手々は小さいが

その強いことかぎりなし

オーベア〜

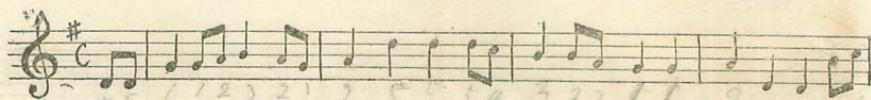
ウウー

ベア〜

グレートベアブルー

ウウー

# 野 營 の 歌



1 イマヤアサヒハーノボルイザヤケンツラホキヨララ

2 みよわかやかくーそらないざやけんじらいさめララ



ララレラバンバンララレラバンラララレララレラバンバンバン

ララレラバンバンララレラバンラララレララレラバンバンバン

一、今や朝日はのぼる

いざや健兒等起きよ

ララララレラバンバン  
ララララレラバンバン  
バンバンバン

よく輝く空を

いざや健兒等いさめ

ララララレラバンバン  
ララララレラバンバン  
バンバンバン

三、行けや彼方の森へ

いざや健兒等すゝめ

ララララレラバンバン  
ララララレラバンバン  
バンバンバン

、聞けや楽しき聲を

いざや健兒等歌へ

ララララレラバンバン  
ララララレラバンバン  
バンバンバン

五、つどへ篝火のにはに

いざや健兒等おどれ

ララララレラバンバン  
ララララレラバンバン  
バンバン

ドイツ民謡  
中野忠八歌

1 イーハナ ブッチワリ ブッチワリ ブッチワリ

2 なーみを ぶつちわり ぶつちわり ぶつちわり



ミーチナ ブッピラキ ブッピラケ ヤ

うーみを ぶつこえて ぶつこえて や



ブッチワリ ブッピラキ ブッチワリ ブッピラキ

ぶつちわり ぶつこえて ぶつちわり ぶつこえて



ケンジノ チカラ シメセ ヤ

けんじの いきを みせよ や

岩をぶつちわり

ぶつちわり ぶつちわり

道を ぶつびらき

ぶつびらけや

ぶつちわりぶつびらき

ぶつちわりぶつびらき

健児の力 示せ や

二

波をぶつちわり

ぶつちはり ぶつちわり

海をぶつこえて

ぶつこえて や

ぶつちわり

ぶつこえて

ぶつちわりぶつこえて

健児の意氣を 見せよや

三

谷をぶつこえて

ぶつこえて ぶつこえて

橋をぶつかけて

ぶつかけてよ

ぶつ越えてぶつかけて

ぶつ越えてぶつかけて

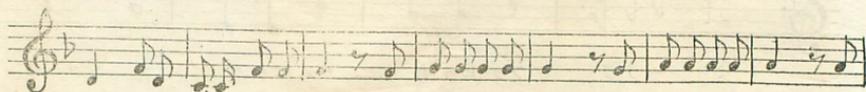
健児の務 つくせや

26 村の道ぶしん

葛原幽歌  
梁田貞曲



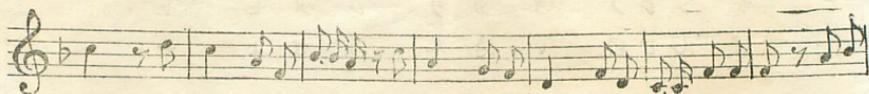
1 ミヅチサラヘ グ サチカリテ ワレラハハガムワレ ラノ  
2 つちをはこび す なをもりて われらははげむわれ らの



ム ラノ ミチブシン ム ラノタメニ クニノタメニ ツ  
む らの みちぶしん む らのために くのために つ



タシタル ワレラノ トシヨリ ノ アユミヤスカルト アサナエフ  
とめなむ われらの おさなごの あゆみやつかれと 、 、 、



ナ ワレラハハガム ワレ ラノム ラノミチブシン エンヤラ  
、 、



ホイ ヤレホイホイホイヤレホイエンヤラホイヤレホイホイホイヤレホイ

、 、

# 村の道ぶしん

みぞをさらへ 草を刈りて

我等ははげむ

我等の村の 道ぶしん

村のために 國の爲めに

つくしたる

我等の 年寄りの

歩みやすかれと

朝な夕な

我等ははげむ

我等の村の 道ぶしん

エンヤラホイ ヤレホイ

ホイホイ ヤレホイ

エンヤラホイ ヤレホイ

ホイホイ ヤレホイ

二

土を運び 砂をもりて

我等ははげむ

我等の村の 道ぶしん

村のために 國のために

つとめなむ

我等のなごの

歩みやすかれと

朝な夕な

我等ははげむ

我等の村の 道ぶしん

エンヤラホイ ヤレホイ

ホイホイ ヤレホイ

エンヤラホイ ヤレホイ

ホイホイ ヤレホイ

三

力あはせ 心あはせ

我等ははげむ

我等の村の 道ぶしん

我等につくす 牛と馬と

旅人のゆくてに心せく

歩みやすかれと

朝な夕な

我等ははげむ

我等の村の 道ぶしん

エンヤラホイ ヤレホイ

ホイホイ ヤレホイ

エンヤラホイ ヤレホイ

ホイホイ ヤレホイ

# 27 進 め 健 児

快活 = 行進調 =

英國古曲  
堀内敬三歌



1 ス スメ ケン シ ミンナソロツテ ユカイニススメ  
2 す すめ けん じ あらしのなかも へいきですすめ



ス スメ ケン シ ユカイニス ス メ  
す すめ けん じ へいきです す め

一 進め健児 皆んなそろつて

愉快に進め

二 進め健児 愉快に進め

二

三 進め健児 嵐の中も

平氣で進め

四 進め健児 平氣で進め

三

五 進め健児 道なき道も

開いて進め

六 進め健児 開いて進め

四

七 進め健児 理想をめがけ

勇んで進め

八 進め健児 勇んで進め

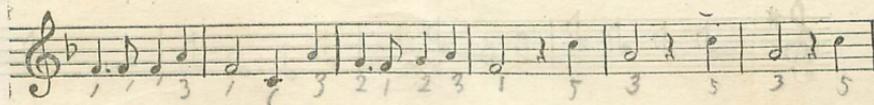
28 森の氣(輪唱)

稍速ク

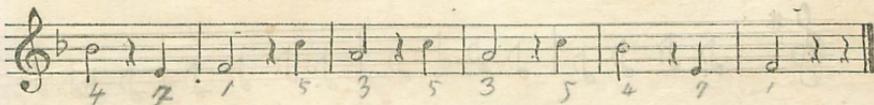
(英スカウトソング)  
古田草路編曲



1 ユ フモヤ コメ テフ クロガナ クーコ  
2 あ さぎりついでかっ こーがな くーか



ズエノツ キニフクロ ノコ エ ホツ ホ ホツ ホ ホツ  
なたのもりにかっこーのこゑ カッ コ カッ コ カッ



ホ ホツ ホ ホツ ホ ホツ ホ ホツ ホ ホツ ホ  
コ カッ コ カッ コ カッ コ カッ コ カッ コ

夕靄こめてふくろが鳴く

梢の月にふくろの聲

ホツホー ホツホー

ホツホー ホツホー

ホツホー ホツホー

ホツホー ホツホー

二

朝霧ついてかっこーが鳴く

彼方の森にカツコーの聲

カツコー カツコー

カツコー カツコー

カツコー カツコー

カツコー カツコー

29 むかふのお山に

中野忠八歌



1 ムカフノ オヤマニ クロクモ カカレバ

2 ひとしば ふきくる すずしい かーぜに



ケフーハ キサウゾ オホユダ チー

アラバラ バラツと おほつぶ あめ



ソナヘヨ ツネニダ ホシモノ カタツケ

バラバラ パババラバラ パパパ パラ パバラバラ



テントニ アマミツ ハイラス ヤウニ

ザザザラザラ ザザザラザラ ザザザ ザアー

一

むかふのお山に黒雲かゝれば

今日は來そうぞ大夕立

「そなへよつねに」だほし物片付け

テントに雨水ばいらぬ様に

二

一きは吹き來るすゞしい風に

パラパラ パラツト 大粒雨

パラパラパラ パラババパラバラ パババラバラ

ザ、ザ、ザラザ、ザラザラ ザザザザア

三

テントの中は 金城鐵壁

雨でも槍でも 苦にやならぬ

サアサア歌ひませう ラ、ラ、ラ、ラ、ラララ

ララララララ、ラ、ラララララア

四

黒雲破つて ひらめくいなづま

つゞいてとゞろく 神鳴りは

ゴロゴロゴロゴロゴロゴロゴロゴロ

ゴロゴロゴロゴロゴロゴロゴロゴロ

五

雨ばやんだり 雲は切れ行く

またもや仰ぐ 青空を

小鳥は囀る ビヨビヨビヨビヨビヨビ

ビヨビヨビヨビヨビヨビヨ ビヨビヨビーヨ

六

テントの入口 かけ出てはやくも

健兒の焚く火に立つ煙

米かせ芋きれ鑑詰あげ醬油させ

夕餉の支度にとかりくれ

# 30 夜の歌

large

ドヴオルシヤーク 曲  
堀内 敬三 作詞



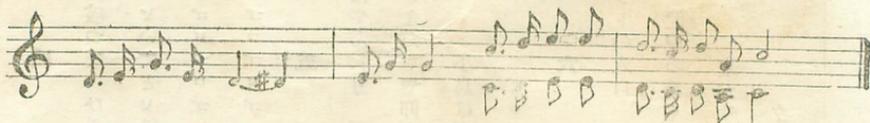
トホキ ヤマニ ヒハ オチテ ホシハ ソラチ



チリバメヌ ケフノ ロザラ ナシヲヘテ



ココロ カロク ヤスラヘバ カゼハ スズシ



コノ ユフベ イザヤ タノシキ マドキセン

遠き山に

日は落ちて

星は空を

ちりばめぬ

今日のわがを

なしをへて

心かるく

やすらへば

風は涼し

この夕

いざやたのしき

まごぬせん

ニグロの子守歌より

最後に二小節は二部とするも單に上部及下部のみにて歌ふもよし。更に反響的歌唱法によるも可なるべし

# 31 ジャグルの唄

三上留吉曲  
古田草路詞



1 ジャングル ルジャングル {オイラ ノ セ カイ}  
2 、、、 、、、、 {おいら の お くに}



トーリヨ ア ケー ラ オサ メル ジャングル  
と う り よ あ げー ら お さ め る じや ん ぐ る



オレハ モー グリ ハダカデ ハダシ  
バルー ふさつちよ めがねを かけて



オレノ センセイハ バル ニ バギ ラ  
ごしょう だいじに おきて の おも り

FINE

一、ジャングル〜おいらの世界

おいらのお國

頭領アケーラ 治めるジャングル

おれはモーグリぼだかではだし

おれの先生はバルーにバギラ

二、(繰返し)

バルーふとつちよめがねをかけて

ごしょうだいじに 掟のおもり

三、(繰返し)

やぶでてだれの バギーラ兄貴

水も泳げば 木もよぢのぼる

四、(繰返し)

バンダロッツは 仲間ぢやないぞ

カーに吹かれてしつぽでも冷せ

五、(繰返し)

虎のおあまり いたゞくタバキー

やぶのなをれだ 意氣地なしよ

六、(繰返し)

虎のシアアカンいばつてゐるが

おれの目玉にや かないばしまひ

ジャングル〜おいらの世界

おいらのお國

頭領アケーラ 治めるジャングル

## 23 うちの坊や



ウチノボウヤハリコウナ坊ヤ ワタシノイフコトヨクワカル  
 うちのぼうやはりこうな坊や わたしのいふことよくわかる



オテテチアゲテ コチラヲムイテ オメ、オメ、オメ、オー  
 おてゝなあげて こちらをむいて おはな おはな おはなオー

一 うちの坊やは 利巧な坊や

私のいふことよくわかる (これまで合唱)

おてゝな上げて (父が手を上げる子も上げる)

こちらを向ひて (兩人向ひ合ふ)

「おめめ」 (父自分の眼を指して示す)

「おめめ」 (子も我眼を指して云ふ)

おゝ—— (父嬉しげに喜びて始へ戻る)

二 「おはな」

三 「おうち」

四 「おち」と次第に下りて

五 「おへそ」に至りて止む

善良なババ 可愛い子供をつれて遊び居る姿である。表情  
 眞に嬉しげなり。上品にして輕妙、家庭に用ひて面白し。

# 33 子狼の唄

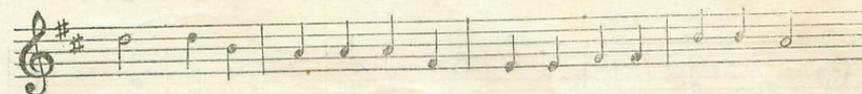
葛原傳作詞  
東京健兒音樂隊曲



1 モリ モリ モリノコ コ オ ホ カ ミ  
2 もり もり もりのこ こ お ほ か み



イ ハ ノ マ ド キ ニ ミ ナ カ ガ ヤ カ シ  
ひ ろ い し ぜ ん に て あ し な の ば し



オ サ ラ ヲ ヤ マ フ マ ゴ コ ロ ミ セ テ  
く ま に な ら ふ た お き て に よ つ て



シ ッ カ リ ヤ ラ ウ ヨ オ イ ラ ノ ナ カ マ  
た の し く く ら そ よ お い ら の な か ま

(三) ウォー ウォー

一  
森 森の子 子狼

岩のまごゝろに眼を輝かし  
長なうやまふ まごころみせて

しつかりやらふよおいらの仲間

二

森 森の子 子狼

廣い自然に手足をのばし

熊に習ふた おきてによつて

楽しく暮そよ おいらの仲間

三

森 森の子 子狼

眞赤な 花に胸まぎるかし

豹のお話うれしく聞いて

元氣に遊ぼよ おいらの仲間

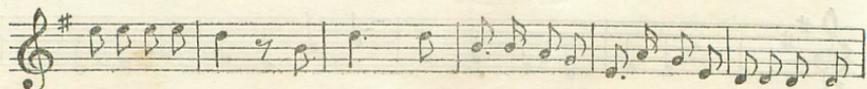
ウォー ウォー

# 43 赤狼の唄

三上留吉作  
三と兵作



ウオー ウオー ウオー — モ リ ニ ソダ ツタ  
うおー うおー うおー — も り に そだ つた



オホカンベ アカイ ボウシニ アカゲノ ジャケツイ  
おほかんべ あかい ぼうしに あかげの じゃけつい



ツモ ゲンキデ カイ カツ ニ アカア  
つ も りこうで しんせつ に あかあ



カ ア カ ノ オホ カン ベ —  
か あ か の おほ かん べ —

ウオーウオー ウオー

森に育つた狼部

赤い帽子に赤毛のじやけつ

いつも元気で 快活に

赤 赤 赤の 狼部

二

ウオー ウオー ウオー

森に育つた狼部

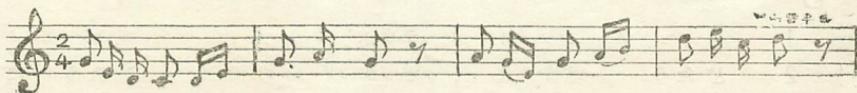
赤い帽子に赤毛のじやけつ

いつも利巧で 親切に

赤 赤 赤の 狼部

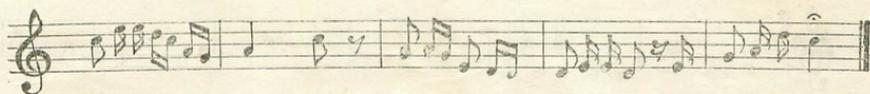
# 35 つばめの歌

野口雨情歌  
中山晋平曲



カヘルツ パー メー ハ コ ノー ハ ノー オフ ネ ネ

ふねがゆ れー れー ば つばめもー ゆれるね



ナミニューラーン リヤ オフーネハー ユレルネ サ ユレルネ

つばめかーへーる にや おくーにがー とほいね さ ゆれるね

## (木の葉のお舟)

一、かへる つばめは

木の葉のお舟 ネ

波にゆられりや

お舟はゆれる ネ

サ ゆれるネ

二、舟が ゆれれば

つばめもゆれるネ

つばめ かへるにや

お國が遠いネ

サ とほいネ

三、とほいお國へ

ほのないお舟 ネ

波にゆられて

つばめはかへる ネ

サ かへるネ

(文・歌小唱)



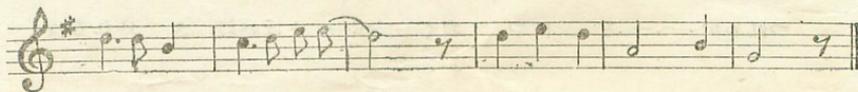
1 クモヲ シノゲル ラウボク ノ コズエノ  
2 どたうー さかまくぜつかいの こたうーに



ウヘノ アラワシハ ヒロキウ チウヲ ヘイガイ  
スクフ あらわしは あらしをついて あまかけ



ス ミソラノ クンシュ サナガラニ ケダカリ  
リ ばぐくむ ひだに えなはこぶ やさしく



ヲヲシ トリノウー ワシノスガタ  
つよし とりのわうー わしのこころ

一、雲をしのげる老木の

梢の上の荒鷲は

廣き宇宙を睥睨す

み空の君主さながらに

氣高く雄々し

鳥の王 鷲の姿

二、怒濤さかまく絶海の

孤島に巢くふ荒鷲は

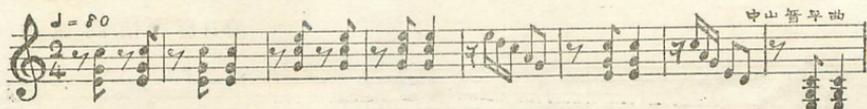
アラシ 暴風雨をついてあまかけり

育くむ雛に餌を運ぶ

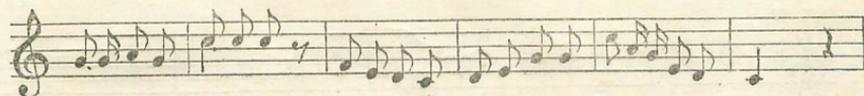
やさしく強し

鳥の王 鷲の心

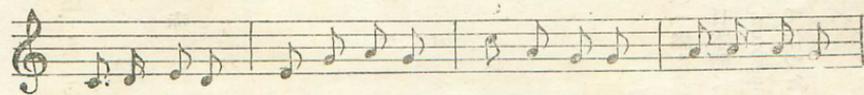
# 37 證城寺の狸囃



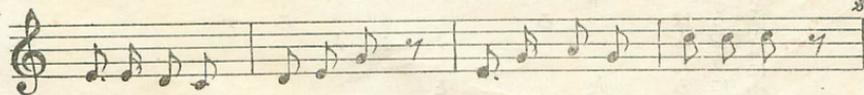
證 證 證城寺 證城寺ノニハハ ツツ ツキヨダ  
 證 證 證城寺 證城寺のほざは つつ つきよに



ミンナデテ コイコイコイ ガイラノ トモダチャ ボンポポボンノボン  
 はなざかり—— おいらの ともだちや ほんほんほんのほん



マケルナ マケルナ 和尙サンニ マケルナ



コイコイコイコイ コイコイコイ ミンナ デ テ コイコイコイ

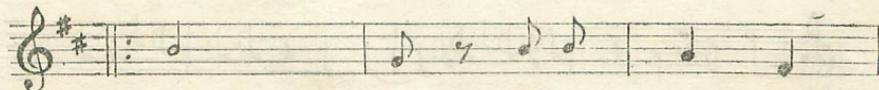


39 蕃の舞 獵

アフリカ土人の歌



シンシヤン グリグリ グリグリ ワツシヤ シンシヤン ウキリ ウキリ ヤ



イエ — — ラ イエラ チヤ エバ



イエラ チヤ バ チヤラ バ



ヂヤバラ ダヤバラ チヤバラ ヒオウ

シン シヤン グリ グリ

グリ グリ ワツシヤ

シン シヤン ウキリ ウキウリヤ

シンシヤン グリグリ

グリ グリ ワツシヤ

シンシヤン ウキリ ウキウリヤ

イエーラ イエラ チヤバ (獲物発見)

イエラチヤバ チヤラバ! (仕止めたり)

イエーラ イエラ チヤバ

イエラ チヤバ チヤバラ!

ヂヤバラ ダヤバラ チヤバラ

(静かに寄る)

ホウイ

(ヒヤウ)

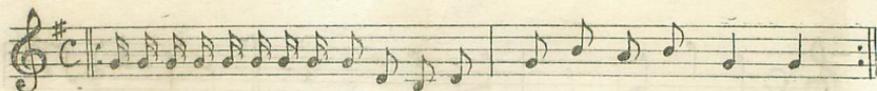
(奇聲を上げる)

壯快奇抜、營火の演技をして……  
蕃人出獵の姿にて走り出る。背後に怪げなる物音にて拍子をとって唱ふ。





## 42 キルリウオツチ



キルリキルリキルリキルリウオツチウオツチウオツチウオツチウオツチカ イエウキンカム カ ワ



ハイハイイチ ゼルマハイ チヤルマ ポリワ マ ハイ ハイ チヤルマハイ トヤルマポリワーツエアブ

## 43 斧のひき (輪唱)

中村知作



1	オノノ	ヒビキ	コココ	コココ
2	かぜの	びびき	さささ	さささ
3	ミツノ	ヒビキ	ザザザ	ザザザ



モ	リニ	タニニ	コココ	コココ
も	りに	たにに	さささ	さささ
モ	リニ	タニニ	ザザザ	ザザザ

44 ARE YOU SLEEPING? (輪唱曲)

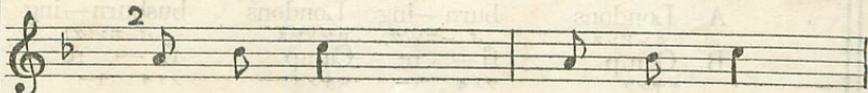
アール ユー スリーピング

1



Are you sleeping?  
アール ユー スリーピング

Are you sleeping?  
アール ユー スリーピング



Bro—ther James,  
ブラ ザー ジェームス

Bro—ther James  
ブラ ザー ジェームス



Morning Bells are ringing  
モーニングベルス アール リンキング

Morning Bells are ringing  
モーニングベルス アール リンキング



Ring ! Dong ! Ring  
リン ドン リン

Ring ! Dong ! Ring !  
リン ドン リン

(文部省唱歌「牛若丸」の譜による)

前へや後やライトレフト  
ヒヤミ思へば又セイヤ  
スローのような早わざに  
鬼の辨慶エツクスキューズミー

三

牛若丸はツヤンプして  
持ったフアーンをスローして  
カムカムカムさらんかんの  
上へあがつて手をたたく

二

キヤピタル五條の橋の上  
グレートマンの辨慶が  
ロンクの長刀ふり上げて  
牛若めがけてカッとする

43 牛若丸

45 A LONDONS BURNING (輪唱曲)

46 B CAMP EIRE

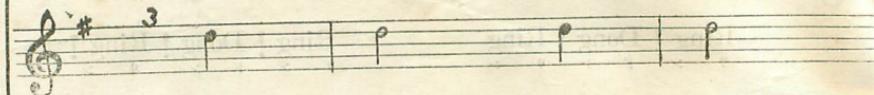
47 C 雪が降る 48 D 火が燃える



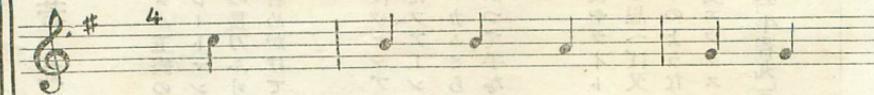
A	Londons	burn—ing	Londons	busburn—ing
	ロンドンス	バーニン(グ)	ロンドンス	バーニン(グ)
B	Camp	fi—re	Camp	fi—re
	キャンブ	ファイヤー	キャンブ	ファイヤー
C	雪が	ふる	雪が	ふる
D	火が	もえる	火が	もえる



Look	yon—der	Look	yon—der
ルツク	ヤンダー	ルツク	ヤンダー
go	with us	go	with us
ゴー	ワー ス	ゴー	ワー ス
ちら	ち	ちら	ち
バチ	バチ	バチ	バチ



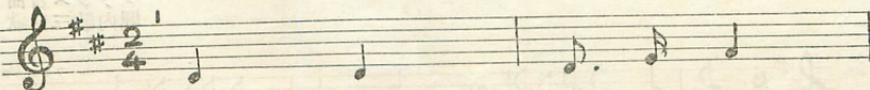
Fire!	Fire!	Fire!	Fire!
フワイヤー	フワイヤー	フワイヤー	フワイヤー
Fire!	Fire!	Fire!	Fire!
フワイヤー	フワイヤー	フワイヤー	フワイヤー
眞	白	眞	赤
眞	赤	眞	赤



Go	fetch	me	some	ura—ter
ゴー	フエヤチ	ミー	サム	ウオダー
Go	to	the	Camp	fi—re
ゴー	ゾー	ゼー	キャンブ	フワイヤー
野	も	は	山	も
けむ	り		まふ	よ

49 ROW, ROW, YOUR BOAT 50 漕げ舟を

圓滑 ニ



1	Row	row	row	your	boat
	ロウ	ロウ	ロウ	ユア	ボート
2	Hoe	hoe	hoe	your	row
	ホウ	ホウ	ホウ	ユア	ロー
3	Save	save	save	the	wheat
	セーヴ	セーヴ	セーヴ	ザ	ホイート



gen—tly	down the	stream
ジエン トリー	ダウン ゴ	ストリーム
か は	し も	に
thro the	snm—mer	heat
スルー ザ	サム マー	ヒート
meat and	su—gar	too
ミート アンド	シユ ガー	ツー



mer—ri—ly	mer—ri—ly	mer—ri—ly	mer—ri—ly
メ リ リー	メ リ リー	メ リ リー	メ リ リー
こ げ や	ふ ね を	こ げ や	ふ ね を
mer—ri—ly	as your bit	cheer—ri—ly	rtiekto it
メ リ リー	アズ ユア—ビツ	チア リー	ステイツクツイツ
corm and po	—ta—toes and	rice and to—matatoes are	
コーン アンドポ	タイ トウス アンド	ライス アンドド マートズ アー	



Life is	put	a	dream
ライブ イズ	パツト	ア	ドリーム
ゆ め	の	せ	て
Rait—ing	beans	and	wheat
レズ インク	ピンズ	アンド	ホイート
might—y	good	for	you
マイ テイ	クワド	フオア	ユー





一日の終 (今日の幸)

フランス曲

尾崎忠雄編

経緯ニ



1 ホシカゲサヤ カニ シヅカニ フケ ヌ  
 2 なごりはつき ねど まどひははてぬ



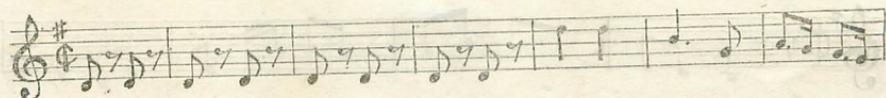
ツドヒノヨロコビ ヲタフハウレシ  
 けふのひとひの さち しづかにおもふ



静	今日	ま	名	=	歌	静	星
か	の	ど	残		ふ	か	か
に	一	ひ	は		は	に	げ
お	日	は	つ		は	に	さ
も	の	は	き		う	ふ	や
ふ	幸	は	ね		れ	け	か
		は	ど		し	ぬ	に
		て					
		ぬ					

# 55 全 夜 俳 驅

武生良樹詞  
中村 知 曲



1 キ キ キ キ キ キ キ トリ ゴ エ オモ シロ  
2 ザク ザク ザク ザク ザク ザク ザク くつ お と いさ まし



ク ユ フ カ セ ソ ヨギ テ クレユク モリノ  
く あ し な み そ ろ へ て ふけゆくよるの



キギノナ カ コズエ ミツメテヲ レラ ハユ  
きりのな か やみを みつめてわ れら はゆ



ク トリ ナク ヤマザヲ ソ レラ ハユ ク  
く さび しき やま ぢを わ れら は ゆ く

(夕)  
キ、キ、キ、キ、キ、キ、キ、キ  
鳥聲面白く  
夕風をよきて

暮れゆく森の木々の中  
梢見つめて我等はゆく  
鳥啼く山路を我等は行く

(夜)

ザク、ザク、ザク、ザク、ザク、ザク、ザク、ザク

靴音勇ましく

足並そろへて

更けゆく夜の霧の中

闇を見つめて我等はゆく

淋しき山路を我等は行く

(朝)

ザ、ザ、ザ、ザ、ザ、ザ、ザ、ザ、ザ、ザ、

谷水音高く

山ざわ白みて

あけゆく朝の森の中

光見つめて 我等はゆく

さかしき山路を我等はゆく

# 565 山 歌

北原白秋詞  
中山晋平曲



1 マ モレ ゴン ガン ヨ ア ケー ヨ キリ ヨ  
2 た に な お く や ま み ち こー そ な げ れ



ヤ マ ハ イ ノ チ ノ ミ ツ ギ バ シ ヨ  
み づ も な が る る こ り も な く



ユ ケ ヨ ア ラ ク レ ド ン ド ー ト ノ ホ レ  
ま ご は お い わ げ き こ り ー は き や リ



ナ ツ ハ ナ ト コ ノ ド キ ヨ ダ メ シ  
あ さ は す そ の ム は な し ご ま

風よ吹け〜笠吹きとばせ

笠は紅緒の荒むすび

雨よ降れ〜ざんごとかゝれ

肩の着蕨も伊達ぢやない

山は百萬石木萱の波よ

木萱こゆればお花畑

雪の御殿に水のいねや

瀧は千丈の逆おさし

## 五

さあさ火をたけごろりとまよ

木の根枕に峰の月

夢にや鈴蘭谷間の小百合

酒のさかなにゆくぢら

## 六

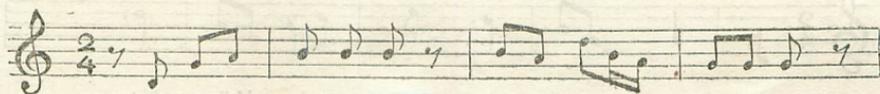
守れ権現しづまれ山よ

山は男の禿場所

雲か空かこながめた山も

今ぢやわしらの眠り床

# 57 子供の踊



1 オドリ オドリ チヤンチキ チヤンチキ チヤンチヤン チヤン  
2 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、



モ モト サクー ラノ ハナー チル ニハ デ  
て んを さしー あげ ちをー ふみ しめて



コ レモ ハナー カヤ コドモノ オドリ  
も のに おそー れぬ をのこの おどり

一 おどり〜 チヤンチキ チヤンチキ

チヤン チヤン チヤン

桃と櫻と

咲き散るにはで

これも花かや

子どものおどり

二 おどり〜 チヤンチキ チヤンチキ

チヤン チヤン チヤン

天を差上げ

地を踏みしめて

ものに怖れぬ

男の子のおどり

三 おどり〜 チヤンチキ チヤンチキ

チヤン チヤン チヤン

肩をなぐめに

袂をかざし

ふれば優しい

女の子のおどり

四 おどり〜 チヤンチキ チヤンチキ

チヤン チヤン チヤン

蝶と花さが

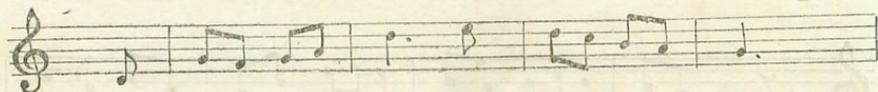
お手々をつなぎ

丸く輪をかく  
子どものおどり

58 笑 の 歌



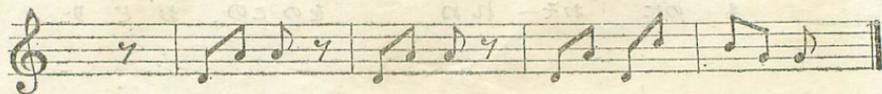
フ ツノ スソ ノ ニ ハナ ガサ キヤ  
あ をき がば ら に つき がで リヤ



モ リノ コト リ ガ ウタ ヒ ダ ス  
も りの ふくろ が わら ひ だ す



ソラ ウタへ ウタへ コエ タカ ラカニ  
ソラ わらへ わらへ こゑ たか らか に



ラ、ラ、ラ、ラ、  
ワハ、ワハ、ワハ、ワハ、

富士の裾野に 花さげば

森の小鳥が うたひ出す

ソラ唱へ 唱へ 聲高らかに

ラ、ラ、ラ、

、ラ、ラ、ラ、

青木が原に 月がでりや

森のフクロが 笑ひだす

ソラ笑へ 笑へ 聲高らかに

ワハ、ワハ、

ワハ、ワハ、

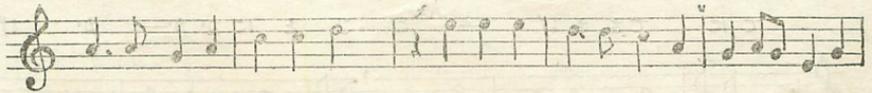
59 キャンプ



ヤマノ キャンプだ キャンプノ アサダ タニヘ  
やまの キャンプだ キャンプの ひるだ じすゐ



クダツテ タマーチル ミツデ カラダ キヨメテ  
ごはん に わんづめ れうり そまつ ながらも



ヒノ デヲ フガ ミヤ ハダハ ヒユピエ ランキハ  
はし とり あげ りや したに しみじみ おいしく



スンデ ケガレ シラ ナイ コーコーロニカヘル  
たべて そぼく たつ とぶ こーこーろにかへる

一

山のキャンプだ、キャンプの朝だ  
谷へ降つて、珠散る水で  
身体きよめて、日の出を拜みや  
肌はひえびえ精氣は澄んで  
けがれ知らない心にかへる

二

山のキャンプだ、キャンプの晝だ  
自炊御飯に、謹詰料理  
粗末ながらも箸こりあげりや  
舌にしみじみおいしく食べて  
素朴たつとぶ心にかへる

三

山のキャンプだ、キャンプの夜だ  
枝をあつめて、焚火を焚いて  
圓く座を占め、思を語りや  
顔はあかく、みな輝いて  
遠い祖先の、心にかへる

# 60 日の丸の旗

壯嚴ニ（餘リ遅クナク）

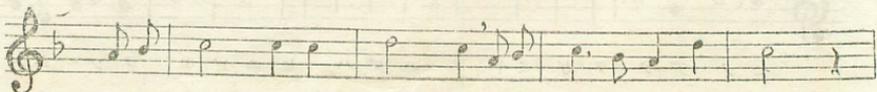
八波則吉歌  
弘田龍太郎曲



1 ムラクモハラ ツテセガ イナテラー ス  
2 ひいづるみく にのひこ ひめみな が



ヒノ オホカミ ノー オホミスガ タナ  
てに てきさげ ー こごとにかか かげ



ウツ シ ラア フ ガヒノ マルノ ハ タ  
きみが よい は ふひの まるのは た



アア オ ゴソ カ ナヒノ マルノハ タ  
ああ あ ざや か なひの まるのは た

一、むら雲はらつて

世界を照す

日の大神の大御姿を

うつして仰ぐ日の丸の旗

ああおこそかな日の丸の旗

二、日出づる御國の

日子日女皆が

手に手に捧げ戸毎に掲げ

君が代祝ふ日の丸の旗

あああざやかな日の丸の旗

三、空飛ぶ飛行機

波ける汽船

國の内外に我が同胞の

雄圖を語る日の丸の旗

ああいさぎよい日の丸の旗

# 61 夜 明 げ

上田反龜曲



1 サア サ サ ー ヨアケ ダ  
2 あ さ ひ ー でた で た



ア サ ギ リヤ ハ レ タ  
ひ が し は あ か い



ケフモ テンホダ ミソラハ ハレタ アサダ  
けふも よいひだ てんとさま わらった あさひ



ヨアケダ ヨアケダ アサダ  
でたでた よあけだ あさだ

一、さあさ 夜明だ

朝霧暗れた

今日も天気だ

み空は晴れた

朝だ夜明けた

夜明けた朝だ

二、朝日出た出た

東は赤い

今日もよい日

太陽様笑つた

朝日出た出た

夜明けた朝だ

三、呼子鳴る鳴る

隊長の呼子

さあさ 出た出た

天幕の外へ

呼子鳴る鳴る

夜明けた朝だ

# 62 朝の歌

From overture, Light Cavalry,

ズツペ作曲  
堀内敬三作

1 { ヒハ イデメヒハ イデメ タノシキアサハ キヌイ  
キモ カロクミモ カロク シゴトニアアタリ テカ

{ ザワガ ケンジョヨ コーコロナーキヨ メ  
ナラズ ヒトツノヨ キーコ トナサン

日は出でぬ

日は出でぬ

楽しいき朝は来ぬ

いざわが健兒よ

心を清め

氣も軽く身も軽く

仕事にあたりて

必ず一つの

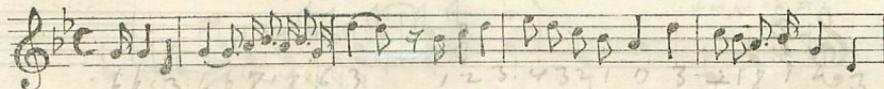
善き事なさん

○「朝の歌はドイツの輕騎兵の序曲によつたもの。その快活な曲を利用して一日を愉快にはじめるやうに、又一日一善主義を忘れぬやうに考へたもの」

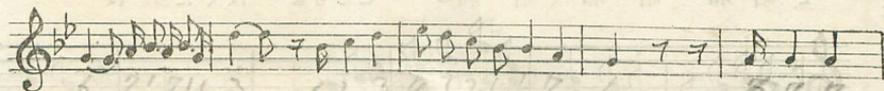
# 63 朝露ふみわけ

青野 滋歌  
ビゼー元曲

行進曲のやうに



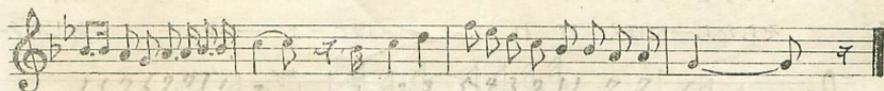
1 アサツ ユーヲフミワケテー ワカキ ケンジハイ デ タチヌアサツ  
2 あさつ ゆーをふみわけてー けんじはい で たちぬあさつ



ユーチフミワケテー ミヨヤ ナヲシクス ム サギリ  
ゆーをふみわけてー みよや をなしくすす む ゆく の



キエユクミチノベニー ヒビク アシオトコー コチ ヨーヤ サギリ  
いーばらきりはらひー すすむ けんじのいーさま しーや ゆく の



キエユクミチノベニー コハタ ターカクヒルガへ ルー  
いーはをうちわりつー すすむ けんじのいーさま しー

(繰返し)

朝露ふみわけて

わき健兒は出て立ちぬ

朝露ふみわけて

見よやをしくすすむ

一、狭霧消えゆく道の邊に

響く脚音心地よや

狭霧消えゆく道の邊に

小旗高くひるがへる

二、行手のいばら切り拂ひ

進む健兒の勇ましや

行手の岩をうちわりつ

三、健兒何をか恐れんや

勇み野山をかけめぐる

健兒何をか恐れんや

心常にそなへたり

四、三つの誓を力にて

清き誠を磨く子ぞ

十のおきては金鐵に

清き誠を磨く千ぞ

五、名こそ命と健兒らに

日々の一善はけみつ

名こそ命と健兒らに

辛き艱苦もうち忘る

六、天つちの道ふみて

つさめはたさむ健兒らぞ

天つちの道ふみて

皇國護れよいやさかに

# 64 昭和の子供

久保田管二歌  
尾崎忠次編曲

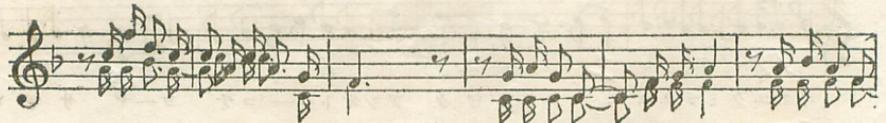
快活に稍速く



1 昭和 昭和 昭和ノ — コドモヨ — ホリタチ ハ  
2 昭和 昭和 昭和の — こどもよ — ぼくたち は



スガタモ キリリ ココロモ キリリ ヤ マ ヤ マ  
おほきな のぞみ あかるい こころ そら そら



ヤマナラ—フジノ ヤ マ ユコ—ヨ — ユコ— アシナミ  
そらなら—にほん ば れ (ゆ)こ—よ — (ゆ)こ— あしなみ



—ソロ — タラララ — タララ タララララ  
—そろ — 、 、 、 、 、 、 、 、 、

昭和〜の子供よ

一 僕達は 姿もきりり

心もきりり

山 山なら富士の山

行こうよ行こう

足並そろへ

二 タララツラタララ

タララララ

昭和〜の子供よ

三 僕達は大きな希望

空 々々なら日本晴

行かうよ行かう

足並そろへ

三 タララツラタララ

タララララ

昭和〜の子供よ

四 僕達は元氣な身体

鳥 々々なら鷹の鳥

行かうよ行かう

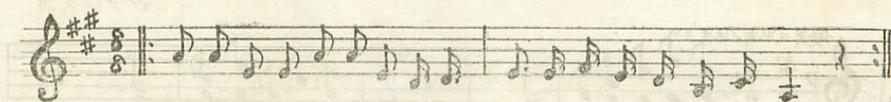
足並そろへ

四 タララツラタララ

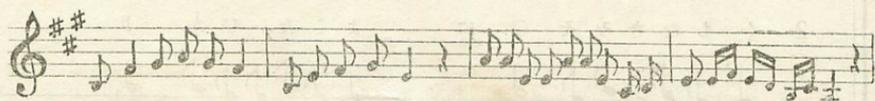
タララララ

タララララ

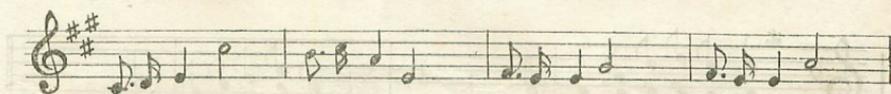
# 65 健児の一日 (ブラブラ澤)



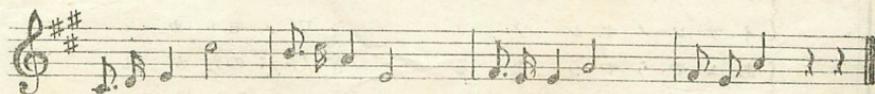
テントハリミゾホリ ミヅクミカマ ド ヤ シヨクタクツー クー リ  
 コメトギ メシタキ マキワリセン タ ク テントヲ セー ト ン シ



ア サラナガシタ タニマノミヅニ シヤブシヤブ ゴシゴシ オースーズーシ  
 ヤエイノアセヲバ ゴシゴシ シヤブシヤブ



ブラ ブラ ブラ ブラ  
 ヲシ ラ ノ キヤンプヘ ブラ ブラ カー エロ



モー リ ノ ヨミ チヲ ブラ ブラ カヘ ロ  
 ヲシ ラ ノ キヤンプヘ ブラ ブラ カヘ ロ

天幕張り 溝掘り  
 水波み 釜どや 食卓造り  
 米とぎ 飯たき  
 まき割り せんたく  
 天幕を整頓し  
 朝から流した野營の汗をば  
 谷間の水に  
 シヤブ 々々 ゴシ 々々  
 ゴシ 々々 チヤブ チヤブ  
 おゝ ナゞし  
 ブラ 々々 ブラ 々々  
 わしらのキヤンプヘ  
 ブラ ブラ 歸る  
 森の夜道を ブラ ブラアラブラ  
 わしらのキヤンプヘ  
 ブラ ブラかへる

(昭和八年實習所ブラブラ澤野營生活ノ習作)

66 星の界

杉谷代水歌  
コンヴァース曲

優美 = 中速ノ速度ニテ

1 ツキナキミソラニ キラメクヒカリ  
2 くもなきみそらに よこたふひかり

{ ア、ソノホシカゲ キボウノスガタ  
{ イザソノホシノヨ キワメモユカン  
{ あゝやうやうたる ぎんがのながれ  
{ いざさをさせよや きうりのふれに

ジ、ンチハハテ ナ シ ムキウノチチ ニ  
あふぎてながむる ぼんりのあなた

67 別れの歌 (Aulp Lang syne)

中巻の通し

エラウ トクヤ ノモト リほ 一ニク ムツダ マツ ジビ 一 ンモ

ハあ ゲか 一さ アや ヒま ター ルを ミお ちも ひひ 一 ンモ

ケニ マニ 一ろ ハを ヒか がた 一ニク ハむ タす 一 ニび シあ ニひ

ナリ ゴん レじ りの ヲみ シち クー モを ワた カビ 一 ンな ンえ

# 68 美はしき天地

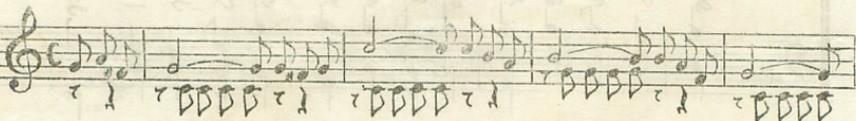
犬董球溪作歌



1 サクハ ナナク トリ タノシ ミツキモ  
2 なるか みたつに じながめ もくし



ブフクカセテルツキコノヨゾウレシキ  
くつむゆきおくしもこころもさやけし



## Chorns

サチアル — コノヨモ — サチアル — コノミモ —  
サチアル コノヨモ サチアル コノミモ



ミカミノ — タマモノ — タタヘヨ — アメツチ —  
ミカミノ タマモノ タタヘヨ アメツチ

一 咲く花鳴く鳥  
 樂しみつきせず  
 吹く風照る月  
 此の世ぞうれしき  
 幸福ある此世も  
 幸福ある此身も  
 御神のたまもの  
 讚へよ 天地  
 二 鳴る神たつ虹  
 ながめも奇しく  
 續む雪おく霜  
 心も爽けし  
 幸福ある此世も  
 幸福ある此の身も  
 御神のたまもの  
 讚へよ 天地

# 69 里の小川

傳田治朗詞

ゆつたりと

タニ アヒ ノ サ ト ヲ セ ラ ギ ナ シ テ  
 な が れ ゆ く せ が は な か し わ れ は

コ ウ ヲ ス ク ヒ ト ラ ー シ ト シ テ  
 か は ー よ か は よ さ ら ー の を が は

イ ク タ ヒ カ ナ レ ヲ ニ ー ゴ ー シ ー シ  
 わ が だ も か な れ り な が れ よ し は に

一 谷あひの里を

せせらぎなして

ながれ行く小川

なつかし我れは

小魚すくひとらんさして

幾度か汝をにごしし

川よ川よ里の小川

わが友となりぬ

流れよ とほに

二

折々の花を

もみぢをうつし

静かなる里を

ながるゝ小川

おのが村の幸はすべて

汝が水の深きめくみぞ

川よ川よ里の小川

村人をめでゝ

ながれよ 永久に

# 70 日出づる國

(中村春次作歌)



1 ヒガ シノソラ ターカク ア サヒハノーポリ タリ

2 いは はずやわ がく にの か がやくゆーくす ゑを



ミ ズヤツ ノキラ メキ テン チーニ—ミチミチテ

よ ろこべやわが みの た ぐ—ひ—なきさちを



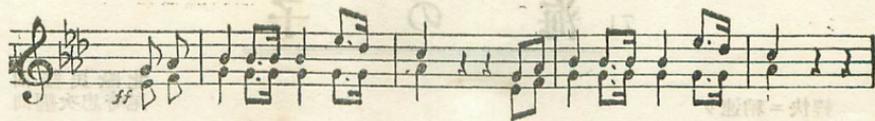
ク ラキク マーモ—ナシ ワーガヒノ モ—ト—ハ

に せんご ひやく—ねん ほまれある れ—きし は

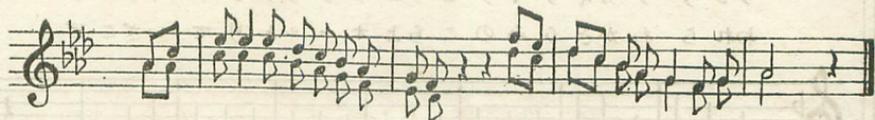


ゲニ カクコソ—アル ナレ アヲ ゲヤヒー ト—ビ ト

さら によるづ—よか けて さか ゆるめ—で—た さ



セ イ ギ ナ バ マ モ リ テ シ ヤ ド ウ チ バ シ リ ソ ケ  
 せー か い に あ ま ね き ひー か り を あ ふ げ や



セー カ イ ニ ノー ズ ム ト キ ヒ ク イー ヒ ニ ター カ シ  
 げー に や ま と ー し ま ね ぞ ひ い づー る く に 一 な る

<p>日出づる國なる          實に日本しまねぞ          普及き光りを仰げや          榮ゆる芽出度き世界に          歴史は更に萬かけて          二千五百年譽れある          喜こべや我が身の類なき幸を          輝く行末を          祝はずや我國の</p>	<p>二</p>	<p>國威日に高し          世界に望む時          正義をば守りて邪道をば退け          實にかくこそあるなれ仰げや人々          暗き隅なし我が日の本は          天地に満ちく          見すやそのきらめき          朝日はのぼりたり          東の空高く</p>
--	----------	--

# 71 海 の 子

北歐民謡曲  
尾崎忠次編曲

輕快=稍速ク



ワレラ ワカキウミノコラヨウナツサシテ イザエケ  
われら わかきうみのこらよオールとりて いざこげ



ン ララ ンララ ンララ ンララ ンララ ンララ ンララ



キシニ タチテ ハルカ ミレバウチハナミニオドルヨイ  
ちから こめて りやうてひげばらみのはなはちりちるか



ンララ ンララ ンララ ンララ ンララ ンララ ンララ ラララ



カリマ キホー ラアゲ テテーブネハ ワレチマネグヨ  
ぜは あれな みくる ふらなじも われらおそれじ



ラララ ララララララ ラララ ララララララ ララララ

ワレラ ワカキ ヲミノ コラヨウ ナジ サシテ イザユ ケ  
 われら わかき うみのこらよ オール とりて いざ こげ

ンララ ンララ ンララ ンララ ンララ ンララ ンララ ラ

我等若き海の子等よ	風はあれ波狂ふ	力こめて双手ひけば	我等若き海の子等よ	二	我等若き海の子等よ	いかりまき帆をあげて	岸に立ちて遙か見れば	我等若き海の子等よ
海路も吾等怖れじ	波の華はちり散る	ホールさりていざこげ	ホールさりていざこげ		海路さしていざ行け	出船は吾等招くよ	魚は波に躍るよ	海路さしていざ行け
オールとりていざこげ								

72 A L O H A O E  
ア ロ ハ ナ エ

緩徐 *mp* (ワイブル)

1 ヤマ ベニフルアメ ハ ー オ トモナクツソ ギ ー  
2 やさ しきばらのは な ー み づにう つるや ま ー

*mp* *mf*

コト リノ スチヌラ シ ー ホノ カニ ハナ ヒラク ー  
ひさ の この ころ は ー それ より もう らは し ー

*p* *mf*

ア ロ ハ ナ エ ア ロ ー ハ ナ エ ヨ ハ メ ヲ ミ ニ ー ミ ツ レ ド  
ア ロ ハ ナ エ ア ロ ー ハ ナ エ よ は め ぐ み に ー み つ れ ば

73 ALOHA O E

ココロモ タカカラシ マタアフー マデ  
 こころも たかからじ またあふー まで

A - LO - HA O E! E KE O MA - O - NA NI I KA I I - PO

山邊に降る雨は 音もなくそそぎ

小鳥の巢をぬらし ほのかに花開く

アロハチエく 世はめぐみに満つれば

心も高からじ 又逢ふまで

二

やさしきばらの花 水にうつる山

人の子の心は それよりもなを美はし

アロハチエアロハチエ 世は恵みに満つれば

心も高からじ 又逢ふまで

## 73 A LO H A O E

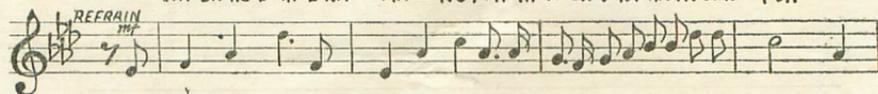
ア ロ ハ オ エ

MUSIC BY  
H.M. QUEEN L. LIUOKALANI

HA-A HE-O KA-U-A I-NA PA LI, KE NI HI-AE LA I KA-NA HE - LE,  
MA-O-PU-PO KAI KE-NA I-KA NA - NI, NA PU A RO-SE O MAU-NA WI - LI,



E U - HAI A-NA PA-NA I-KA LI - KO, PU-A LE-HU-A A-HI-HI O U KA  
I LAI-LA HO-O-HI-E-NA MA - NU, MI-KI A-LA I-KA NA-NIOI-A PUA



A - LO - HA OE! A - LO-HA OE! E KE O-NA O-NA NO-HO I KA LI - PO,



O FOND EM-BRACE, A - HOI AE AU, UN -TIL WE ME ETA - GAIN. —

(リリオカラニ女王作)

na - a ne-o ka-u-a i-na pa li, ke ni ni-ae la  
ハ ア ヘ オ カ ウ ア イ ナ パ リ ケ ニ ヒ ア エ ラ  
i ka-na ne-le, e u- nai a-na pa-ha i-ka li-ko,  
イ カ ナ ヘ レ イ ウ ハイ ア ナ パ ハ イ カ リ コ  
pu-a le-hu-a a-hi-hi o u ka a-lo-haoe  
プ ア リ フ ア ア ヒ ヒ オ ウ カ ア ロ ハ オ エ  
a-lo-ha o e e ke o-na o-na no-ho i ka li-po,  
ア ロ ハ オ エ エ ケ オ ナ オ ナ ノ イ カ リ ポ  
o fond em-brace, a-hoi aeau, un-til we meeta gain -  
オ フ オン ド エ ム ブ レ ス ア オ イ ア エ ア ウ アン テ イ ル ウ イ ミ ー ト ア ゲ ー ン  
ma-o-pu-po kai ke-na i-ka na-ni, na pu a ro-  
マ オ プ オ カ イ ケ ナ イ カ ナ ニ ナ プ ア ロ  
se o mau-na wi-li, i lai-la ho-o-hi-e-na ma-  
セ オ マ ウ ナ ビ リ イ ラ イ ラ ホ ガ ヒ エ ナ マ  
nu, mi-ki a-la i-ka na-ni oi-a pua.  
ヌ ミ キ ア ラ イ カ ナ ニ オ イ ア プ ア

Double Black Wall Hitch.

74 Good night Brothers

good-night brothers! good-night brothers!

Good-night brothers! Were going to leave you now

Merrily we roll a long roll a long, roll a long Merrily we roll a long Oer the dark blue see

- 1 Good night, Brothers! good night brothers!  
 Good night, Brothers! Were going to leave you now

Merrily werall a long rolla jolla long, roll b jong,  
 Merrily we roll a long, Oer the dark blue see,

- 2 Fare well, brothers! Fare ll, brothers!  
 Sa re well, brothers were going to leav yon now
- 3 Sweet dreams, Brothers! sweet drams prothers!  
 Sweet dreams brothers were going to leave you nov

# 75 若者の歌

快活ニ稍早ク

(スエーデン曲)  
平林廣人作歌

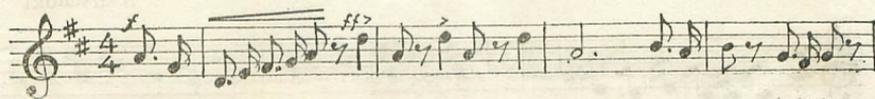
ツ ヌ フ ミ コ エ ル ヤ ヤ ヤ コ ホールルホシカゲ ランラン

ヒ カーンノアトナキ クンキノイヅミニ ヲフミコエル ヤマチ

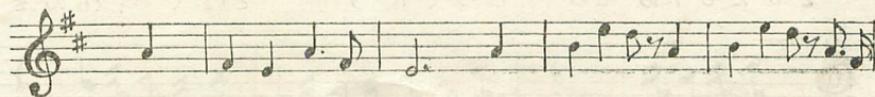
- 一 露ふみ越ゆる 山山山  
こぼるゝ星かげ ランランラン  
悲観のあとなき歡喜の泉に  
露ふみ越ゆる山路。(繰返し)
- 二 森吹くそよ風 颯々々々  
神秘の調は 唳々々々  
「不平のあらしはさく吹き拭はれ  
神秘をかたるこずゑ。」
- 三 笑はば笑へ ハツくくく  
嗚青しと 咄々々々  
「歌へよ五體にみなぎる力を  
ほこりに燃ゆる意氣を。」
- 四 友誼のなさは、涙々々々  
勵まし進まん 友々々々  
「はるか 望の光に  
手をとりに進まん、いざや。」
- 五 手に手ををりつつ 駭々々々  
理想の世界に 堂々々々  
「花の香高く光まばゆき  
理想の世界に進め。」
- 「若ものゝ歌」はスエーデンのヘルシングラ  
ン地方の快活な民謡の樂曲に合せてオーラフ  
チエンマンの作つたもの、今日ではスカンデ  
ナビヤを中心として北歐の青少年の、歌はな  
いものはないと云ふ程廣く流行して彼等の英  
氣を養つてゐるもの。

# 76 青年の歌

山田耕作曲



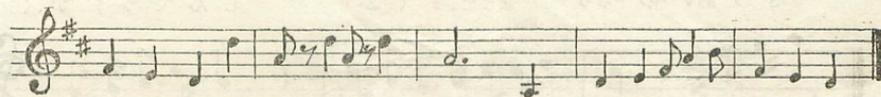
1 アケ ヌクソラヨ イザ イザ イザ ムネ ハ ガドル  
2 ひら きゆくつち いざ いざ いざ うで は ふるふ



ク モノ ヒカ リ ア レコソ ワ レラノ ワカ  
わ くや いづ み そ れこそわ れらの わか



キノゾミヨ イザ マ コトヲ一タ ヅ一ネテガ イカノ一タ  
きちからよ いざ ま ことを一た づ一ねてが いかの一た



ビヂ ニイ ザ イザイ ザ イ マゾワレラ ワカシ  
びぢ にい ざ いざい ざ い まぞわれら わかし

<p>三</p> <p>凱歌の旅路に いざ いざ いざ 今ぞ我等若し</p> <p>凱歌の旅路に いざ いざ いざ 今ぞ我等若し</p> <p>凱歌の旅路に いざ いざ いざ 今ぞ我等若し</p>	<p>二</p> <p>拓き行く土 いざ いざ いざ 今ぞ我等若し</p> <p>腕は振ふ湧くや泉 それこそ我等の 若き力よ いざ 眞理を尋ねて</p> <p>凱歌の旅路に いざ いざ いざ 今ぞ我等若し</p>	<p>一</p> <p>明け行く空よ いざ いざ いざ 今ぞ我等若し</p> <p>胸は躍る雲の光 あれこそ我等の 若き希望よ いざ 眞理を尋ねて</p> <p>凱歌の旅路に いざ いざ いざ 今ぞ我等若し</p>
--	--	---

# 77 貴く生きん

田澤義鋪歌  
S.kusunoki



1 ユウベシヅ ケキ モリノナカ ゲツカウ コノマ  
2 ひたひにあ せの しづくなす どりよくのくわんき



モルトコロ クモナガレユク レイメイノ  
きみしるや むれにたたふる ぼんこくの



ヒカリニタイキ スムトコロ シゼンノレイキ  
さうあいの じゃう よをすくふ しんでうたかく



ミニウケテ ワレジンセイヲ オ モフカナ  
きよともえて ちやくあくのよを て らすなん

一 夕静けき森の中

月光木の間洩るところ  
雲流れゆく黎明の

光に大氣身に享けて

われ人生を思ふかな

二 額に汗の雫なす

努力の歡喜君知るや

胸にたたふる萬斛の

相愛の情世を救ふ

信條高く炬と燃えて

濁惡の世を照すなん

三 東海の濱日の出づる

國ぞ祖神の開きてし

尊き日本 道の國

道義すたれて混亂の

世界の暗を照すこそ

わが民族の使命なれ

四 求めよさらば與へられ

叩けば開く向上の

一路たどらん 我が友よ

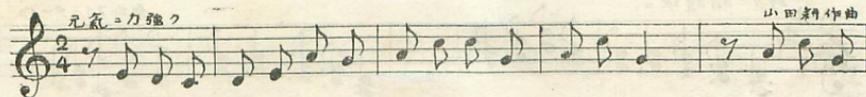
來ればるかに永遠の

希望の光 仰ぎつゝ

貴く生きん もるとともに

# 78 空は青雲

北原白秋歌



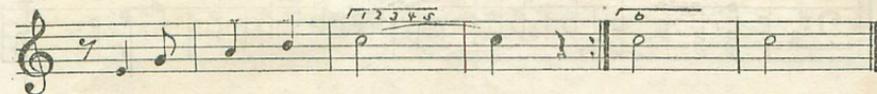
1 ソラハ アチグモ シラハ リカイ イハニ  
2 うみは はるばる わしらは わかい なみに



コダ カノ アフグヨ ダ サウダサウダ スダチノ  
よつ との ゆれるよ だ さうださうだ みなみの



ワカダカダ イ マーニ カゼ キール  
かぜーまち だ い まーに の り こーす



タカ ノ ハ ダ 一  
なみのほ だ 一 だ 一

空は青雲わしらは若い  
さうだ 岩に小鷹の仰ぐよだ  
いまに 巢立つ鷹の羽だ  
いまに 風切る鷹の羽だ

海ははるばるわしらは若い  
さうだ 波に快走船の揺れるよだ  
いまに 南の風待ちだ  
いまに 乗り越す波の穂だ

古い國柄わしらは若い  
さうだ 山と川とは搖籠だ  
いまに 生れの生へぬきだ  
いまに お國の後繼だ

時はよい秋わしらは若い  
さうだ 若い日本の起つ秋だ  
今にかがやく朝焼だ

何が辛かるわしらは若い  
さうだ 心だてなら玉のよだ  
いまに 鋼鐵のひびくよだ  
いまに 地から噴き出す眞清水だ

伸びろ耐へろのしらは若い  
さうだ 今だ いづれ柱になる木だ  
いまに お國を背負ふ木余りだ

# 79 赤澤山の野營

静カ=稍暖休ニ

原曲フオスター作

1 ミドリコキ モリノカゲ ケガレ ナキ キヨキサハ  
 2 やまのいは うちくだき ながれ にな がるわらしなの

シツカナル ヒライシノ カミノヨニニシオキフ シヲ イ  
 それよつよき いきもちて まがねのごときつよき みな い

ザヤ イザヤ イザゴコロミン ア カザ ハヤマノカリ ノヤド  
 ぎや いぎや いぎつくらなん ひ にも みづにも たゆ るみを

## 赤澤山の野營

S・B・S・I

## 一 綠濃き森の蔭

汚れなき清き澤

静かなる平石の

神の代にし起臥を

いざや／＼いざ試みん

赤澤山の假の宿

## 二 山の岩打ちくだけ

流れに流る蘘科の

それより強き意氣持ち

眞鐵の如き強き身を

いざや／＼いざつくらなん

火にも水にもたゆる身を

## 三 木にすだくひぐらしの

音もやみし星の夜に

かゞりのまどひ今果て、

つられし天幕を今日の宿

いざや／＼いざ眠らなん

錦に優る草枕

## 湖畔の野營

中野忠八歌

## 一 みどり濃き松の蔭

けがれなき白き砂

底もみゆるや鶏の湖

神の代に似し起伏を

いざや いざや いざ試みん

雄松岬の假の宿

## 二 雲の峯湧き起ちて

高ききそふや比良伊吹

それより高き意氣をもて

眞鐵の如き強き身を

いざや いざや いざ造らなん

火にも 水にも 堪ゆる身を

## 三 そよ吹く風に寄る波の

音も静けし日生の夜に

健兒のまどひ今果て、

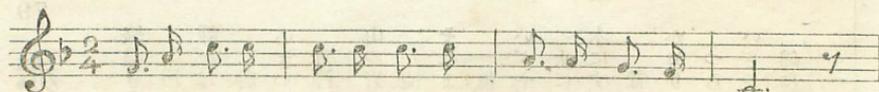
つらねし テントを今日の宿

いざや いざや いざ眠らなん

錦にまさる草枕

# 81 静岡縣青年

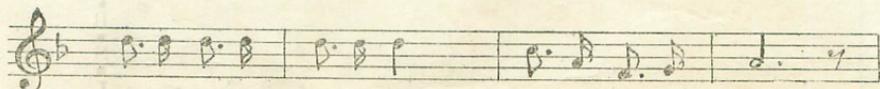
急ガズニ



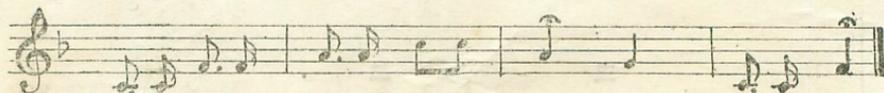
1 スルガノ クニチー ナカニシテ  
2 くにのー しづめと ふじのみね



イツトホ タフミ トウカイノ  
せんこの ゆきをを いただきて



エウチチ シムル クニハミツ  
あさひー ゆうひに かがやけ げ



ケンハー ヒト ツノ シ ツ フカ ヨ  
うみやま すべ てー ひ か りあ り

一 駿河の國を中にして

伊豆遠江東海の

要地を占むる國は三つ

縣は一つの静岡よ。

二 國の鎮めと富士の峰

千古の雪を戴きて

朝日夕日にかゞやけば

海山すべて光あり。

三 五百方里の土地肥えて

天興の産は品多く

黒潮洗ふ海岸に

寄せ來る船もあまたあり

四 久能山上永へに

英雄骨を埋めたり

首山堡下の忠勇は

後の世までの語り草

五 國のすがたを明らかに

績は高き賀茂の大人

西の文化を反射爐に

移したてたる江川翁

六 偉人の跡を忍びつゝ

我が責任を思ふとき

若き血潮は高鳴りて

前途遮るものもなし。

# 82 乃木大將

吉丸一昌歌  
小松耕輔曲



1 ユメ ヨリ アーワキ ミカツキ ノ  
2 ほづ つの ひーびき とどろき て



オホウチ ヤマニ キユルト キ  
よひやみ やぶる いちせつ な



サーキノ ミカドノ ミグルマ ハ  
のぎたい しゃうは おんあと な



ハテノ イデマシ アラセラ ル  
しーたひ まつりて ゆきに けり

- 一 夢より淡き三日月の  
大内山に消ゆる時  
先の帝の御車は  
果のいでましあらせらる
- 二 火砲のひびきとゞろきて  
宵やみやぶる一刹那  
乃木大將は御後を  
墓ひまつりて逝きにけり
- 三 日頃捧げし誠心は  
また魂になりかはり  
天つ御國の大君に  
天地は共に仕ふらん
- 四 六十四年の生涯は  
日本の武士のかどみにて  
をはる最期のかがやきは  
純美崇高極みなし
- 五 起てよ武夫武士道の  
權化をこゝにのみさめずや  
今し銳心(トゴコロ)起さずは  
腰のつるぎに恥あらん
- 六 わが帝國の同胞よ  
鬼神涙に咽ぶべき  
この壯烈に勇ますば  
汝の胸に血汐なし

# 83 赤穂義士

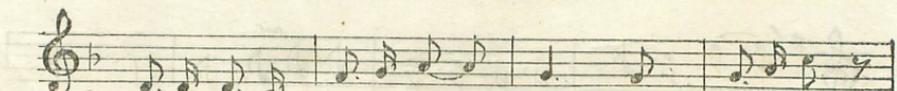
S, B, S. I 編曲



1 キミノー メガ ミ ニ タ ラ プ レ バ  
2 うら み は つー も る ゆ き の よ に



フー ツノ タカネモ タ カ カ ラ ズ  
主 くん の あー だ を か へ し た る



カー ミノ ケヨ リモ カ ロ キミハ  
しー ちゆう しら しの も の が たり



ス ツ ル ニ ナ ニ カ ー ヲ シ カ ラ ン  
き く も ー い さ ま し い ざ き た れ

一

君の恵に比ぶれば  
富士の高根も高からず  
髪の毛よりも軽き身は  
捨つるに何惜にしからむ

二

恨はつもる雪の夜に  
主君の仇をかへしたる  
四十七士の物語り  
聞くも勇ましいざ來れ

三

歴史に残る忠と義の  
名は高輪の泉岳寺  
ならぶ石碑にむす蒼の  
昔語らん人々よ

四

定めし日にもなりしかば  
おのゝ支度をとよのへて  
泉岳寺にぞ會しける  
その敷正に四十七

五

かゝりし胸の雲晴れて  
昇る心の朝日かげ  
かゞやく空に満つる名の  
ほまれは長し千代までも

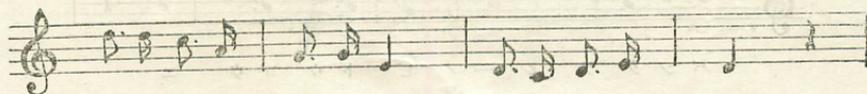
(行進歌に適する様變曲す)

# 84 起てよ國民

西條八十作曲  
松平信博作曲



1 テンジン イ カリ チギ イ カ ル  
2 こうりやう な びく まん し う は



トツ ナニ モノノ ボウ ギヤク ゾ  
おーもへ さいどの たたかひ に



マンモウ ノーソラ カゼクラ ク  
わがちう ゆー一の しやうそつ が



ヒルガへ ルコサ一 チニ ア カ シ  
かばねに かーへし とちなる ぞ

一  
天神怒り地祇恚る  
咄何者の暴虐ぞ  
満蒙の空風晴く  
ひるがへる胡砂血に赤し

二

高梁摩く滿洲は  
想へ再度の戦に  
わが忠勇の將卒が

三

屍に換へし土地なるぞ

秋風さむし表忠塔

いま暴民の靴さきに  
踏みじられて神州の  
國威危うく墜ちんとす

四

神統二千六百年  
正義輝く大日本  
天地に恥ぢぬ權益を

五

起てよいざ起て國民よ  
起ちて正義の戟を執れ  
いまぞ國威を示さずば  
あゝ千歳に恥あらん

# 85 日本海々戦

瀬戸口藤吉曲  
大和田建樹



1 カイロ— イチマン ゴセシヨリ  
2 ときこれ さんじゆうら はちねんの



バンクヲ シーノビ トウヨウニ  
さぎりも ふーかき さつきすえ



サイゴノ ショウハイ ケツセン ト  
てきかん みゆとの けいほうに



ヨセコシ テキコン ケナゲナレ  
いーさみ たちたる わが かんたい

一

海路一萬五千餘里

萬苦を忍び東洋に

最後の勝敗決せんこ

寄せこし敵こそ健氣なれ

二

時維れ三十八年の

狭霧も深き五月末

敵艦見ゆとの警報に

勇み立ちたる我が艦隊

三

早くも根據地後にして

旌旗堂々荒波を

蹴立て、進む日本海

頃しも午後の一時半

四

霧の絶間を見渡せば  
敵艦合せて約四十  
二列の縦陣作りつゝ  
對馬の沖にさしかゝる

五

戰機今やと待つ程に  
旗艦に掲げる信號は  
皇國（みくに）の興廢この一舉  
各員奮勵努力せよ

六

千載不朽の命令に  
全軍深く感激し  
一死奉公の時さ  
士氣旺盛に天をつく

七

第一第二戦隊は  
敵の行手を押へつゝ  
其の他の戦隊後より  
敵陣近く追ひ迫る

八

敵の先頭「スウォーローフ」の  
第一弾を初めとし  
彼等の打ち出す砲聲に  
天地崩るゝ斗りなり

九

水柱白く立ちのぼり  
爆煙黒くみなざりて  
戦愈々たげなほに  
兩軍死傷數死れず

一〇

されど銀へに銀へたる  
吾が艦隊の鋭鋒に  
敵の數艦は沈没し  
陣形亂れて四分五裂

一一

いつしか日は暮れ水雷の  
激しき攻撃絶間なく  
又もあまたの敵艦は  
底の藻屑と消え失せぬ

一二

明るるあしたの晴天に  
敵を索めて行き行けば  
うつりよう島のほざりにて  
白旗を掲げし艦（ふね）四隻

一三

副將こゝに降を乞ひ  
主將は我れに拂はれて  
古今の歴史に例なき  
大戦功を收めけり

一四

昔は元軍十餘萬  
筑紫の海に沈めたる  
祖先に勝る忠勇を  
示すも君の大御陵威

一五

國の光を加へたる  
我が海軍のほまれこそ  
千代に八千代に曇りなき  
朝日と共に輝かめ

86 進 軍

兒玉花外詞  
陸軍の樂隊曲



1 ヒイ ツル クー ニノ マス ラヲ ガ  
2 たた かひ かー ちて かへ らす ば



イマ タタ ー カヒニ イデ テユ ク  
ふた たび ー はみず ぶぼ のく に



ハタ ヒル ー ガヘリ テ ハリ キ テ  
はー なに いさを を かざら ず ば



カン コノ コー ヘヤ ラ ツ パ ノ ネ  
ちー りて かへ らぬ わが み な り

一  
日出づる國の武夫が  
今戦ひに出でて行く  
旗ひるがへり血は湧きて  
歡呼の聲やラツパの音

二  
戦ひ勝ちて還らずば  
二たびは見ず父母の國  
花よ功勳を飾らずば  
散りてかへらぬ吾身なり

三  
富士と秩父の兩山が  
昆渡す兵士の肩の波  
揃ふ足なみ大海の  
早や敵軍を呑まんとす

四  
戦争する身と空の鳥  
いづくに果つる飛行機か  
空の兄弟頼んだぞ  
地は引受けた日本刀

五  
大和魂彈丸こめて  
撃ち出すところ敵の影  
雲か霞か冤と消えて  
王師は光り輝けり

# 87 建國行進歌 (一)

陸軍軍樂隊曲

♩ = 114

1. 1. 5. 5 | 3. 2. 1. 1 | 2. 2. 1. 2 | 3. 0 | 3. 3. 2. 1 |

ひのおほかみがーひのくにを はーじめ

6. 6. 1. 6 | 5. 5. 5. 6 | 5. 0 | 6. 5. 3. 6 | 5. 5. 5. 5 |

たまひしげんごくの はうそーむきうの

6. 6. 5. 6 | 1. 0 | 5. 5. 6. 5 | 1. 2. 3. 3 | 5. 5. 2. 3 |

ちほみこと かかけてのりのーびぞあか

1. 0 | 5. 5. 5. 5 | 6. 5. 3. 3 | 2. 1. 2. 3 | 5. 0 |

き ああおほぞらにーひはてれり

6. 6. 5. 3 | 1. 2. 3. 3 | 2. 2. 5. 5 | 1. 0 ||

われらがみちにーひかりあり

一 日の大神が日の國を

肇めたまひし建國の

寶祚無窮の大詔

かかけて靈章の炬ぞ明き

ああ大空に日は照れり

我等が途に光あり

二 此の國土を産みなせる

祖神の力我にあり

物てふ物を生すなる

かの日の愛、我れにあり

ああ大空に日は照れり

我等が途に光あり

三 皇國の生命新らしく

民族に生くる建國の

不壞の精神に諸人の

榮ゆく國をうち建む

ああ大空に日は照れり

我等が途に光あり





# 90 軍艦マーチ

鳥山啓詞  
瀬戸口藤吉曲



1 マモルモ セムルモ クロガネ ノ ウカベル  
2 いはきの けむりは わだつみの りうかと



シーロツ タノミナル ウカベル ソノシロ  
ばかり なびく なり たまらつ ひびきは



ヒノモトノ ミクニヨモヲ マモルベ  
いかつちの こゑかざばかり ぎよむな



シマカネ ノソフネヒノモ  
りばんりのはとうをのりこ



トニ アダナスクニヲ  
えて みくのひかり



セメ ヨカシ  
かが やかせ

91 拔刀隊

外山正一作詞

吾は官軍我敵は 天地容れざる朝敵ぞ

敵の大將たるものは 古今無雙の英雄で

之に従ふ兵は 共に標悍決死の士

鬼神に恥ぢぬ勇あるも 天の許さぬ叛逆を

起せし者は昔より 榮えし試し非ざるぞ

敵の亡ぶるそれまでは 進めや進め諸共に

玉散る劍抜きつれて 死すべき覺悟で進むべし

二

みくにの風と武士は 其の身を守る魂の

維新このかたすたれたる 日本刀の今更に

又世に出づる身のほまれ 敵も味方も諸共に

刃の下に死すべきに 日本魂あるものゝ

死すべき時は今なるぞ 人に後れて耻かくな

敵の亡ぶるそれ迄は 進めや進め諸共に

玉散る劍抜きつれて 死すべき覺悟で進むべし

三

前を望めば劔なり 右も左も皆つるぎ

劍の山に登るのは 未來の事と聞きつるに

此の世に於いてまのあたり 劍の山に登るのも

我身のなせる罪業を 滅すためにあらずして

賊を征伐するがため 劍の山も何のその

敵の亡ぶるそれまでは 進めや進め諸共に

玉散る劍抜きつれて 死すべき覺悟で進むべし

四

劍の光ひらめくは 雲間に見ゆる稲妻雷か

四方に打出す砲聲 は天にさぐる雷か

敵の刃に伏す者や 丸にくだけて玉の緒の

絶えて果敢なく死ぬる身の 屍は積んで山をなし

其の血は流れて川をなす 死地に入るのも君のため

敵の亡ぶるそれまでは 進めや進め諸共に

玉散る劍抜きつれて 死すべき覺悟で進むべし

五

彈丸雨飛の間にも 二つ無き身を惜しまずに

進む我身は野風に 吹かれて消ゆる白露の

果敢なき最後をさぐることも 忠義の爲に死する身の

死して甲斐ある者なれば 死するも更に恨なし

我と思はん人達は 一步も後へ引くなかれ

敵の亡ぶるそれまでは 進めや進め諸共に

玉散る劍ぬきつれて 死すべき覺悟で進むべし

六

我今こゝに死なん身の 君の爲なり國のため

捨つべきものは命なり たとへかばれば朽つることも

忠義の爲に死する身の 名はかんばしく後の世に

永くつたへて残るらん 武士と生れて甲斐もなく

義もなき犬と言はるゝな 卑怯者ぞともしられな

敵の亡ぶるそれ迄は 進めや進め諸共に

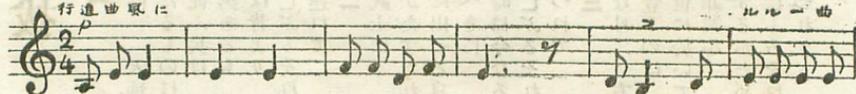
玉散る劍抜きつれて 死すべき覺悟で進むべし

# 91 拔 刀 隊

外山正一詞

ルル一曲

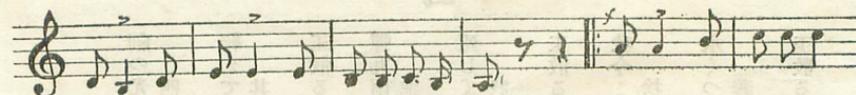
行進曲取に



1 ワレハ カンガン ワガテキ ハ テン チ イレザル  
2 みくにの ふーさ もののふ は その みをまーもる



チヨウテキ ソ テキ ノ タイショウ タル モノ ハ  
たましひの むしん このかた すたれた る



コ コ ソ ム ソウノ セイユウ テ { コレ ニ シ タゴガフ  
{ キ シンニ ハ シヌ  
につぼん たう の いまさら に { またよに いづる  
{ や いばの も とに



ツ ハモノ ハ ト モニ ヒョーカン ケツ シノ シ  
ユウアル モ テ ノ ユル サヌ ハンギヤク ラ  
みのほま れ て きも みか たも もろとも に  
しすべき に や まと だま しひ あるもの の



# 92 橋 中 佐

安田俊高曲

活潑に・行進曲風に



5. 5. 5. 3 | 5. 5. 1. 2 | 3. 1 6. 1 | 5. 0 | 6. 5 3. 5 | 2. 2 2. 2 |

1. ヲヨ - ヲ - ジョ - ト - ヲハタケテ アリアケツキノ -  
2. わがせいゑ - いのさんぐんを えうげきせんとな



3. 2 3. 5 | 6. 0 | 1. 1. 2 | 2. 1 6. 5 | 6. 5 6. 1 | 2. 0 |

カゲスゴク キリヲチコ - ムルコ - ヲ - ノ  
けなげに も ち - も ひさためててきしうが



3. 1 6. 1 | 5. 5 5. 5 | 6. 5 3. 5 | 2. 0 | 3. 5 1. 5 | 6. 5 5. 3 |

ナカナルザンゴ - コエクエラ ノーザノガチナル  
あつめしへいは - にじゅうふん ほうぎょ - いたらぬ



2. 2 1. 2 | 3. 0 | 2. 1 2. 6 | 5. 5 5. 5 | 6. 5 2. 1 | 1. 0 |

チキ - イノ キモオドロカス - アキノカセ  
くまもなく けつせんするとぞきこえたる

五 四 三 二 一

遼陽城頭夜は開けて  
有明月の影すこく  
霧立ちこむる高梁の  
中なる壘壕聲絶えて  
目醒めがちなる敵兵の  
膽驚がす秋の風  
我が精銳の三軍を  
邀撃せんと健氣にも  
おもひ定めて敵將が  
集めし兵は二十萬  
防禦至らぬ隅もなく  
決戦するとぞ聞えたる  
時は八月末つ方  
我が籌略は定まりて  
總攻撃の命下り  
三軍の意氣天を衝く  
敗残の將いかでかは  
正義に敵する勇あらん  
「敵の陣地の中堅ぞ  
先づ首山堡を乗つ取れ」と  
三十日の夜深くに  
前進命令たちまちに  
下る三十四聯隊  
橋大隊一線に  
漲ぎる水は千仞の  
壑に決する勢ひ  
巖を砕く狂瀾の  
躍るに似たる大隊は  
彩雲たなびく明の空  
敵壘近く攻め寄せぬ

六

斯くと覺りし敵壘の射注ぐたまの烈しくて

先鋒數多斃るれば隊長怒髪天を衝き

七

「豫備隊つづけ」と大刀を振り獅子奮迅と馳せ登る

敵の一線先づ敗る隊長咆哮躍進し

率先塹壕飛び越えて閃電敵に切り込めば

八

つづく決死の數百名敵頑強に防ぎしも

遂に堡壘を奪ひ取り萬歳聲裡日の御旗

九

朝日に高く翻し刀を拭ふ暇もなく

彼れ逆襲の閑の聲十字の砲火雨のごと

挿るべき地物更になき此の山上に篠つけば

一〇

一瞬變轉あゝ悲惨伏屍壘々山を被ひ

鮮血漾々壕に満つ折りしも咽を打貫かれ

例れし少尉川村を隊長射ら提げて

壕の小蔭に縋帶し

再び向ふ修羅の道

嗚呼神なるか鬼なるか

一一

名刀關の兼光が鐔を碎きて彈丸は

腕を削りてさらにまたつづいて打ちこむ四の彈

一二

血潮さつと登れども隊長更に驚かず

儼然として立ちごまり尙ほ我が兵を勵まして

「雌雄を決する時なるぞ」此の地を敵に奪はるな

一三

疾く打ち拂へ此の敵と」天にも響く下知の聲

衆を恃める敵兵も雄たけび狂ふ我が兵に

突き入りかかれて色動き浮足たてし一刹那

一四

爆然敵の砲彈は裂けぬ頭上に雷のごと

邊の兵に浴せつつ彈はあられとたばしれば

打ち倒されし隊長は「無禮ぞうぬ」と力こめ

立たんとすれど口惜しや腰は破片に碎かれぬ

「隊 傷は淺からず暫し此處に」と軍曹の

壕に運びて勞はるを

「否、みよ内田淺きぞ」と戎衣を脱げば紅の血潮淋漓迸る

一六

中佐は更に驚かで隊長我れはこゝにあり

受けたる傷は深からず日本男兒の名を思ひ

一七

命の限り防げよ」と部下を勵ます聲高し

寄せては返し又寄する敵の新手を幾度か

打ち返ししも奈何にせん味方の殘兵少きに

一八

中佐は更に命ずらく「軍曹銃を執つて立て」

軍曹やがて立ちもどり「辛くも敵は拂へども

防ぎ守らん兵なくて此の地めんこと難し

一九

後援來るそれまで」と中佐を負ひて下りけり

屍躰み分け壕を飛び刀を杖に岩を越え

漸く下るをりもをり虚空を摩し一彈は

復も中佐の背を貫きて内田の胸を破りけり



# 93 獨立守備隊の歌

獨立守備隊作詞  
陸軍軍樂隊 曲

♩ = 114



3. 2 1 2 | 2 3 5 5 | 6. 1̇ 5 3 | 5. 0 |  
 1. ア ア マ ン ー シ ユ ウ ノ ダ イ イ ヤ  
 2. ふ ら ん て ー ン し め を ば あ と に し や て  
 3. ク ヲ ウ ジ ン ー ク ラ ク テ ン ヲ オ ヒ



6. 6 5 6 | 6. 1̇ 2̇ 2̇ | 6. 6 1̇ 6 | 5. 0 |  
 ア ー ジ ア ー タイ リ ク ヒ カ シ ヨ リ  
 だ い せ つ ー き 上 う を す ぎ ゆ け ば  
 ヲ ク リ ン ー カ セ ニ ク ル フ ト モ



3. 3 2 3 | 3 3 5 1̇ 6 | 5. 6 3 2 | 5. 0 |  
 ハ ジ マ ル ー ト コ ロ コ ー カ イ ノ  
 き ー た は ー ほう て ん こ ー し い ノ  
 ヲ ロ ヒ ン ー ソ デ ノ ヒ ト フ レ ト



6. 6 5 2̇ | 2̇ 2̇ 1̇ 6 5 | 3. 5 3 2 | 1. 0 |  
 ナ ミ ウ ツ ー キー シ ニ ハ シ ヒ ラ キ  
 は ー て は ー ち しょう し ん い つ せ ん は  
 カ ウ マ ノ ー ツ ー ル ギ コ シ ニ ナ ル



1. 2̇ 2̇ 2̇ | 2̇ 3̇ 2̇ 1̇ | 6. 6 6 1̇ | 5. 0 |  
 エ ン エ ン ー キ タ ニ サ ン ビ ヲ ク リ  
 れ ん ざ ん ー か た に あ ン と う に  
 エ ン ネ ツ ー テ ツ ヲ ト カ ス ヒ モ



6. 6 6 5 | 5 1̇ 2̇ 1̇ | 6. 5 3 1̇ | 2. 0 |  
 ト ー ア ノ ー プ ン カ ス ス メ ユ ク  
 に て う の ー て つ ろ ま ん し ゅ う の  
 ヒ ウ セ ツ ー ハ タ ヲ サ ク 華 ハ モ

3. 2. 1. 2. | 2. 3. 5. 5. | 6. 2. 1. 6. | 5. 0 |  
 ミだか 一いちどき 二にうに 一い 二マシヤクヘ 三ウをテ 四テなッ 五ツすッ 六ドとボ 一ニウ 二ノろノ  
 6. 5. 6. 2. | 2. 1. 6. 5. | 6. 5. 2. | 1. 0 |  
 シュマガ 一もイ 二ビリイ 三ノはッ 一ニカセ 二オレン 三フシニ 四ッわイ 五ガガサ 六アそミ 二タなク 一イヘッ

一 あゝ満洲の大平野 亞細亞大陸東より

始まる處黄海の 波うつ岸に開き

蜿蜒北に三百里 東亞の文化進め行く

南滿洲鐵道の 守備の任負ふ我部隊

二 普蘭店をば後にして 大石橋を過ぎ行けば

北は奉天公主領 はては長春一線は

連山關に安東に 二條の鐵路滿洲の

大動脈をなすところ 守は堅しわが備へ

三 黃塵くらく天を覆ひ 綠林風に狂ふとも

鎧の袖の一觸れと 降魔の劍腰に鳴る

朱熱鐵をとかす日も 冰雪膚を裂く夜半も

難きに耐へて國防の 第一線に勇みたつ

四 内と外とのもろもろの 民の環視の的となり

恩威ひとしく施して 來るを迎へ同仁の

徳を劍の刃に守る 武人の操いや固め

鉾を枕の夜な夜なの 夢にのみ見る永遠の榮

五 あゝ十萬の英靈の 靜かに眠る大陸に

遺せし勳うけつぎて 國威を振ひ東洋の

永き平和を理想とし 務につくす守備隊の

名にまこしへに譽あれ 名にとこしへに榮あれ



一、廟行鎮の敵の陣

我の友隊すでに攻む

折から凍る二月の

二十二日の午前九時。

二、命令下る正面に

開け歩兵の突撃路

待ちかねたりと工兵の

誰か後れをとるべきや。

三、中にも進む一組の

江下 北川 作江たち

凜たる心かれてより

思ふことこそ一つなれ。

四、我等が上に戴くは

天皇陛下の大稜威

後に負ふは國民の

意志に代れる重き任。

五、いざこの時ぞ堂々と

父祖の歴史に鍛へたる

鐵より剛き「忠勇」の

日本男子を顯すは。

六、大地を蹴りて走り行く

顔に決死の微笑あり

他の戦友に遠せるも

かろく「さらば」と唯一語。

七、時なきまゝに點火して

抱き合ひたる破壊筒

鐵條網に到りつき

我身もろとも前に投ぐ。

八、轟然おこる爆音に

やがて開ける突撃路

今わが隊は荒海の

潮の如く躍り入る。

九、あゝ江南の梅ならで

裂けて散る身を花となし

仁義の軍に捧げたる

國の精華の三勇士。

一〇、忠魂清き香を傳へ

永く天下を勵ましむ

壯烈無比の三勇士

光る名譽の三勇士。

95 曙・曉・森・曙



モ — リ ハ — シ — ズ カ — ニ — — — ア — ケ —



ユ — ク — メ — グ ミ — ノ ヒ カ リ — ハ —



サ — — — ヤ — ケ シ カ コ カ コ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ カ



コ カ コ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ カ コ カ コ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

	カ	カ		カ	
ラ	コ	コ	ラ	コ	コ
ラ	カ	カ	ラ	カ	カ
ラ	コ	コ	ラ	カ	カ
ラ	カ	カ	ラ	カ	カ
ラ	コ	コ	ラ	カ	カ
			ラ	カ	カ
			ラ	カ	カ
			ラ	カ	カ
			ラ	カ	カ

森は静かに  
あけゆく  
めぐみのひかりは  
さやけく

96 たのしき野營

The first system of music consists of two staves. The upper staff is in treble clef with a key signature of two sharps (F# and C#) and a common time signature (C). It contains a melodic line with eighth and sixteenth notes, including rests. The lower staff is in bass clef with the same key signature and time signature, providing a harmonic accompaniment with chords and single notes.

The second system of music consists of two staves. The upper staff continues the melody from the first system. The lower staff continues the accompaniment, featuring a mix of chords and moving lines.

The third system of music consists of two staves. The upper staff shows a more active melodic line with frequent sixteenth notes. The lower staff accompaniment includes some complex chordal textures and moving bass lines.

The fourth system of music consists of two staves. The upper staff concludes the piece with a melodic phrase that ends on a whole note chord. The lower staff accompaniment also concludes with a final chord and a whole note.

97. 日の丸萬歳

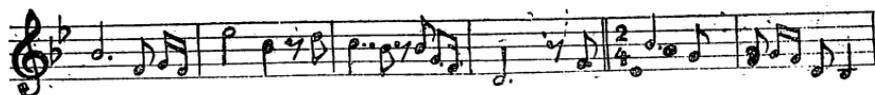
久保宵二歌  
佐々木英曲



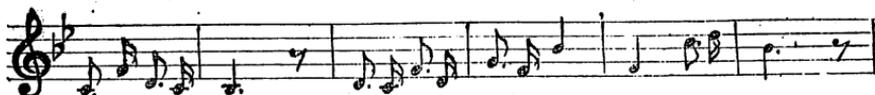
ハ ナ ハ サク ラ ヨ オヤ  
の ぼ る あ さ ひ か わ か



マ ハ フ ツ ヨ マ ツ ハ ミ ド リ ノ ニ ホ ン ノ コ ド モ ニ ケ ー  
ば の か ぜ か こ こ ろ ほ が ら か に ほ ん の こ ど も ゆ け



ヤ ス ス ー メ ヤ カ タ ラ ク ン ー デ ハ タ ハ ウ レ ー シ イ  
や す す ー め や あ し も か る ー く は た は う れ ー し い



ヒ ノ ミ ハ タ ラ ッ タ ラ ッ タ ラ ッ タ ラ ッ タ ラ ッ タ ラ ッ  
ひ の み は た ら ッ タ ラ ッ タ ラ ッ タ ラ ッ タ ラ ッ タ ラ ッ

一、花はさくらよ、お山は富士よ

松はみどりの 日本の子供

行けや 進めや 肩をくんで

旗はうれしい 日のみ旗

ラッタ〜ラッタラ 萬々歳

二、昇る朝日か 若葉の風か

心明か 日本の子供

行けや 進めや 足も軽く

旗はうれしい 日の御旗

ラッタ〜ラッタラ 萬々歳

三、大きくなつたら 世界が舞臺

見てる強いぞ 日本の子供

行けや 進めや 聲も高く

旗はうれしい 日の御旗

ラッタ〜ラッタラ 萬々歳

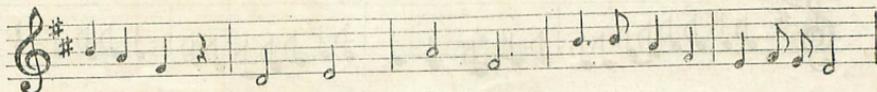
# 98 皇太子様お生れなつた

北原白秋詩  
中山晋平曲

感激を以て  
明る、晴やかに、力強く



1 日ノ出ダ 日ノ出ニ ナツタナツタ ホーホ サイレン  
2 日の出だ 日の出に なつたなつた ホーホ サイレン



サイレン ラーン ラーン チーンゴーン 夜アケノ カネマデ  
サイレン ラーン ラーン チーンゴーン 夜あけの がねまで



天皇 ヘイカ オヨロコビ ミーンナミンナカシワデ ウレシイナ  
皇后 へいか おだいじに みーんなみんななみだで ありがとー



カアサン 皇 タイシサマ オウマレー ナツタ  
お日さま 皇 たいしさま おうましー なつた

一  
日の出だ日の出に、

鳴つた〜ホーオホーオ

サイレン〜ランラン チンゴン

夜明けの鐘まで

天皇陛下 お喜び

皆々かしは手 うれしいな母さん

皇太子さまお生れなつた

## 二

日の出だ日の出に

鳴つた〜ホーオ ホーオ

サイレン〜ランラン チンゴン

夜明けの鐘まで

皇后陛下御大事に

皆々涙で 有難うお日さま

皇太子さま お生れなつた

## 三

日の出だ日の出に、

鳴つた〜ホーオ ホーオ

サイレン〜ランラン チンゴン

夜明けの鐘まで 日本中が大喜び

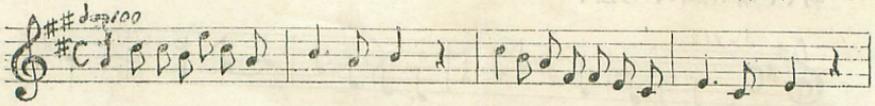
皆々子供が うれしいな有難う

皇太子さま お生れなつた

(三番の歌詞は小符による)

99 スキー民謡

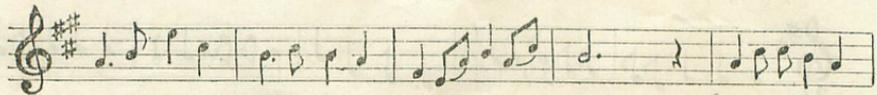
相馬御風訂  
中山晋平曲



ユキノオヤマデア リヤントリヤン ジャンプニテレマク リヤントリヤン  
ちよいとやすめば リヤントリヤン まつのかげから リヤントリヤン



クリスチャニヤテリヤリヤントリヤンリヤンハシツテコロンテ コロコロ  
さーごがしままでリヤリヤントリヤンリヤンリぎーんらぎらぎらギンラギラ



ひーかり かがやく ぎんーせかーい ヤッコリヤドウチウ

アリヤドウチヤ ひーかり かがやく ぎんーせかーいーリヤリヤリヤン

雪のお山でリヤンとリヤン  
ジャンプニテレマクリヤンとリヤン  
クリスチャンヤでリヤリヤンミリヤン  
走つてころんでころころと  
ちよいと休めばリヤンとリヤン  
松のかげからリヤンとリヤン  
佐渡が島までリヤンとリヤンリヤン  
ギンラギラ／＼ギンラギラ  
光りかがやく銀世界  
やつこりやどうちやありどうちや  
光りかがやく銀世界リヤ／＼リヤン

二

雪の山からリヤンとリヤン  
ジャンプにテレマクリヤンとリヤン  
クリスチャニヤでリヤリヤンミリヤン  
尻もち雪もち兎もち  
ちよいと下ればリヤンとリヤン  
松のかげからリヤンとリヤン  
杜の高田のリヤンミリヤンリヤン  
チンラ チラチラ チンラチラ  
戀し高田の灯が見える  
やつこりやどうちやありやどうちや  
戀し高田の灯が見えるリヤ／＼リヤン

100 後藤總長彌榮の歌

儀等の好きな總長は 白いお鬚に鼻眼鏡

團服着けて杖持つて 何時も元氣でニニコニコ

二

僕等の好きな總長は 健兒の爲と言ふならば

お國の果の果までも 喜び勇んで行かれます

三

僕等の好きな總長は 古稀のお年になられても

益々丈夫で偉い方 總長彌榮イーヤサカ

101 平石少年村キャンプファイヤー

(一) あかれさす陽は西に入り とぼりはおりぬ森の中  
こゝは平石の植民地 少年村の夜は深し

(二) 高なる血汐赤澤に 樂しみ待ちし夜のキャンプ  
歌へや踊れ我が健兒キャンプファイヤーは初りぬ

(三) 燃え立つかざり中にして 渦まく煙取り巻きて

(四) 健兒のこゝろ赤く燃え 歌聲高く舞ひ踊り  
いざや歌はん我が國歌 いざや歌はん我が班歌

尾崎團長ニニコニコ 團長いやさかいーやさか

102 チヤカラカ

チヤカラカ〜 チヤウ〜

ボムアラカ〜 パウ〜

チヤカラカ ボムアラカ シスボンバ

デイーヤバーシスケー スパイダー

コープス

アラー アラー アラー

001







106 ラ ッ パ 譜

君 ケ 代

J=66

ト ト タ タ テ | ド ト タ タ テ | テ テ チ テ テ チ | テ タ テ チ ト テ タ タ タ | チ ト ト ト テ タ テ タ |  
 チ ト ト ト テ タ テ タ | ド ト タ タ テ | ド ト タ タ テ | テ テ チ テ テ チ | テ タ テ チ ト テ タ タ タ ||

皇 御 國

J=114

ト タ タ テ タ テ タ | チ テ チ テ タ | ト タ テ | チ テ | チ テ タ | ト ト タ テ | タ ○ |  
 タ タ テ チ テ チ テ | タ ト タ テ | チ テ | タ タ タ ト | タ タ テ チ テ | タ タ テ テ | タ ○ ||

海 行 カ ハ

J=114

ト ト タ テ | チ テ テ タ チ | テ タ ト テ | タ タ タ タ | タ タ タ タ テ タ タ | テ テ タ ト | チ テ チ テ | タ ○ ||

氣 ヲ 付 ケ

J=114

ト ト ト タ タ タ | テ テ テ チ テ | タ タ テ ト ト | タ ○ ||

## 國 ノ 鎮 ノ

♩ = 88

Musical notation for 'Kuni no Chin no' in treble clef, 2/4 time. The piece consists of two staves of music. The first staff has a tempo marking of ♩ = 88. The notation includes eighth and sixteenth notes, rests, and a final whole note. Below the notes are rhythmic syllables: タ タ タ タ ト タ | テー タ ○ | テ テ テ テ タ テ | テー テ ○ |

## 集

♩ = 114

Musical notation for 'Shū' in treble clef, 2/4 time. The piece consists of one staff of music. The notation includes eighth and sixteenth notes, rests, and a final whole note. Below the notes are rhythmic syllables: ト | タ タ タ タ タ | テ タ テ タ | ト タ テ タ | テ . ||

## 前

♩ = 114

Musical notation for 'Mae' in treble clef, 2/4 time. The piece consists of one staff of music. The notation includes eighth and sixteenth notes, rests, and a final whole note. Below the notes are rhythmic syllables: タ . タ タ テ | タ . タ タ . ト | タ タ テ | タ . タ タ ||

## 解

♩ = 114

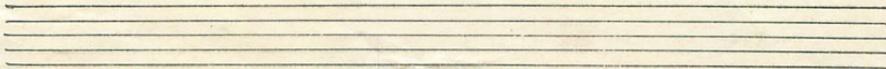
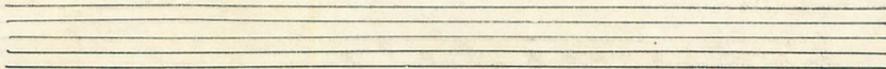
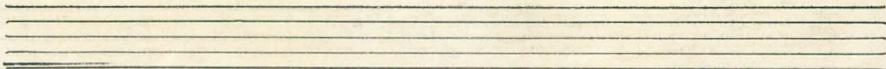
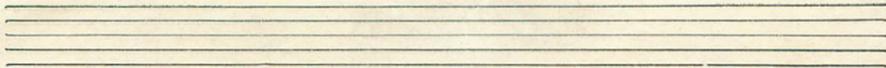
Musical notation for 'Kai' in treble clef, 2/4 time. The piece consists of one staff of music. The notation includes eighth and sixteenth notes, rests, and a final whole note. Below the notes are rhythmic syllables: タ タ タ タ | タ テ タ テ | タ タ タ タ | タ ト タ ||

## 止

♩ = 114

Musical notation for 'Dome' in treble clef, 2/4 time. The piece consists of one staff of music. The notation includes eighth and sixteenth notes, rests, and a final whole note. Below the notes are rhythmic syllables: ト タ テ ト タ テ | タ . ト タ | ト タ テ ト タ テ | タ ト タ ||

=====



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



○少年團の歌には、少年團としての特異な色彩があり香がある。こゝには過去十數年、わが健兒に依つて唱和され、又今後とも歌はるべきものを主として集録した。

○メロデーのよいもの、健兒の氣分をつくるにふさはしいもの、日本精神の作興に健兒精神の振作に資すべきもの、夫々その歌のもつ特性があり價值がある。よくそのよさを歌ひその味を發揮したいものである。

○歌は謠ふ時と場合がある。その時機その空氣を考へないと、その歌の美を創りその氣分を深はすことが出来ない。

例へば「ハイキングの歌」は大自然の間に歩なみそろへで行脚する時、軽らかに謠はるべきもの、「ジャンホリー」

「煙はまふよ」「向のお山」「岩をぶちはり」等は營火の興の盛になつた時、多くの人々の合唱に適してゐる。「たのしき野營」は元來夏の野營地の歌であるが、何時でも謠へる歌。「煙はまふよ」は日本風の曲、これは全く田植歌の調子で、拍手して拍子をさると愉快な歌。

「たのしきキャムプ」は野營地で手隙きの時などに軽く合唱するによい歌、營火にも用ひられる。―などである

○たのしい野營の創作として班氣分の表はれであるもの愉快な健兒生活が産んだ歌などには、そうした部分に意味もあり價值をもつもので野營生活者のみが味ひ得る特異な氣分であると云つてもいい。よくその作意を知りその苦心を汲んだ諦聽と表現を希望する。更に、これらにヒントを得てそれ／＼新味な創作への進展を望んでやまなものである。

○整理すべきもの、修正を要するもの等もある。しかし一は紀念の爲め、一はその史的價値を尊重して、今はそのまま採録して置くこととした。

昭和九年四月廿五日印刷  
昭和九年五月一日發行  
(以印刷代謄寫)

編者 静岡少年團

印刷所 静岡市馬淵 東晃堂印刷所

發行者 少年團 野田屋  
静岡市馬淵 雷品部 電話五五七番

# 愉快な健児



たのしき キャンプ 愉快だ 愉快だ



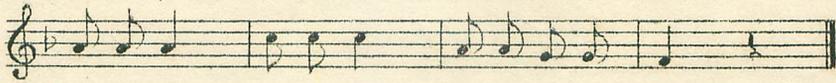
きけとりのうた もりのこゑ



すぬじのけむり ゆらゆらのぼる



ユカイダ ユカイダ ユカイユカイ ユカイダ



ユカイダ ユカイダ ユカイユカイ ダ

一、たのしきキャンプ愉快だ愉快だ

聞け鳥の歌森の声

炊事の煙ゆら／＼のぼる

愉快だ 愉快だ

愉快 愉快 愉快

愉快だ 愉快だ

愉快 愉快

二、日がくれてきた愉快だ愉快だ

かがり火もゆるあか／＼と

たのしきつどひ歌へやおどれ

繰返

三、野營の夕愉快だ愉快だ

静けくふけてやすらかに

み空の星は我等をまもる

繰返

鋼琴五重奏



Handwritten text, likely lyrics or performance instructions, arranged in several columns. The text is extremely faint and difficult to read.

